

英語がいつまでも
わからないのは
学んだ文法のせい
なのかもしねない



だから
この本を書きました。



すべての日本人に贈る
「話すため」の英文法

一億人の 英文法

東洋学園大学 教授

大西 泰斗

慶應大学 教授

ポール・マクベイ

SAMPLE

 東進ブックス

■ 「一億人の英文法サンプル版」について

み

なさんこんにちは。「一億人の英文法」、著者の大西泰斗です。「一億人の英文法」は発売からすでに半年。すでにたくさんのみなさんに、手に取って戴いています(^^)v 胃薬飲みながら3年半。がんばってよかったですなー。

数

十年前から「日本人は読めるけど話せない」と、私たちは後ろ指をされまくってきましたが、それは当然のこと。「話すための文法」がなかったからです。日本人が「読め」たのは、今までの学校文法の成果です。「なんでこんなにたくさん規則作るかなあ」「どうして on にこんなに日本語訳があるんだろう」と散々悪口を言いながらも、なんとか私たちが英語を読めるのは、学校文法の規則と日本語訳のおかげです。とりあえずは感謝ですね。

で

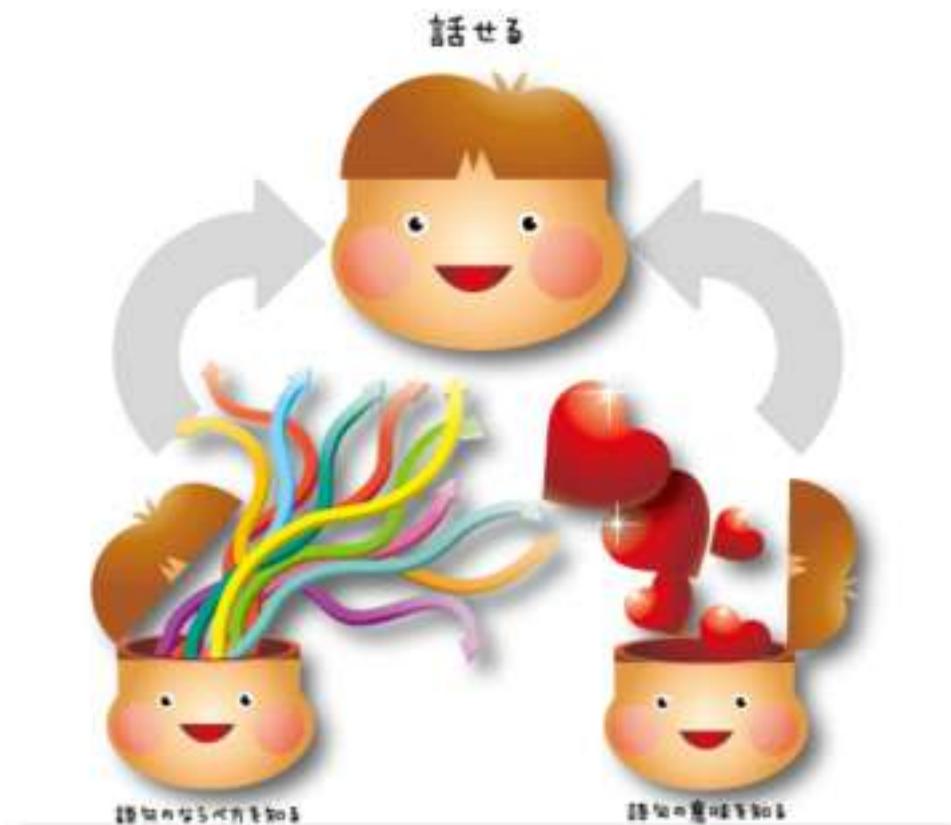
もね。もうそんな時代じゃないんだよ。優秀な成績で受験英語をクリアしたビジネスマンだって話せなくて苦しんでいるのです。読めるだけの、話せない英語に価値はないってことですよ。

さて、それではどうしたらいいのでしょうか? —答えは簡単。英語能力は学んだ文法によって決まります。だったら「読めるだけ」の文法を「話すこともできる」文法に変えればいい。それが「一億人の英文法」。学習英文法を根本的に変える初めての総合英文法書です。「読む」よりもはるかに高度な、「話す」ためのエッセンスを詰め込みました。

1

億人の英文法は、今までの細かな「文法規則」と「日本語訳」で作られた読み解きスペシャルな英文法を、覚える必要がないほど単純な「語句の並べ方」と、話すために詳細に解説された「語句の意味」に置き換えた文法です。この文法をしっかりと熟読すれば、英語に対する誤解とたくさんの「?」が解決し、みなさんは英語の実践に向けて万全の準備をすることができるでしょう。だってことばは結局、「並べ方」と「単語力」だからね。





まーこんな絵ばっか描いて遊んでるから原稿遅れるんだよな。

さて、この「一億人の英文法サンプル版」は、「一億人の英文法が気になるってるんだけど、高いから二の足を踏んでいる」方々のために用意しました。直接のきっかけは「公営図書館で貸し出しが8ヶ月待ちになります」という書き込みを見たから。1890円ってのはやっぱり高いからね。自分に合うかどうか確かめようと思っている人が多いのでしょう。「サンプルさえあれば、ムダに待つ必要もなかろう」と思ったのでした。

サンプル版は、全体のリズムや説明の仕方・深さがわかるように、本書で典型的な部分を抜き出してまとめました。

気に入れば買えばいいし、気に入らなかったら自分に合う文法書を探してくださいね。判断を保留している時間が一番もったいないんです。ことばの学習は「思い立ったが吉日」だからさ。

それでは、サンプル版、お楽しみくださいね。

大西泰斗

-----サンプル版ダウンロード-----

サンプル版は、

- ① 「本書の特徴」「目次」
- ② 「0章英文法の歩き方」
- ③ 「PART 1-CHAPTER1 主語・動詞・基本文型」から「基本文型（抜粋）」
- ④ 「PART 1-CHAPTER2 名詞」の冒頭部
- ⑤ 基本表現のイメージによる説明（動詞・前置詞・副詞[一部抜粋]）
「助動詞・意味の連関」（図のみ）

から成り立っています。順にダウンロードしてください。②からは本書がどうやって「話せる英語」を達成しようとしているのかが、③～④からは、体系的な理解を促すためにどういった説明手法を取っているのかが、⑤からは、「話せる」レベルの語彙知識の解説がどのようなものであるのか、それぞれ理解していただけると思います。助動詞の図は、単に絵が気に入ってるから。趣味です。

とくに②は、英語文法全体の見通しについて解説しております。これだけでも、英語理解がずいぶん進むはずです。お見逃しなく！

本書の特徴・使い方

SPECIAL FEATURES & HOW TO USE

本書は、これまでの文法書とは異なった目的と特徴をもっています。「異なった目的」とは「英語を話す」ということです。従来の文法書は、英語を読み、聴き取ることに重点が置かれてきました。だからこそ、「itは『形式主語』であり、真主語は to 不定詞以下である」などといった「ゆるい」説明が羅列されてきたのです。

こうした「説明」も、英文を理解する助けにはなるのかもしれません。ですが、「話す」ことにはまるで役に立ちません。母国語話者（ネイティブスピーカー）は誰一人としてそうした知識に基づいて英語を話しているわけではないからです。——そうやって、現在の「英語を話せない日本人」は生み出されました。

英語を話すために必要なのは、ネイティブの意識です。彼らが単語を使うとき、文を作るときどういった意識でそれを行っているのか、それを知りコピーする。それが英語を話し、そして彼らと同じ簡便なやり方で読み、聴きとるための要諦なのです。

英語を話す——この目的を実現するために、私は本書に、従来の文法書にはないいくつかの特徴を与えました。

本書の特徴

① 文法用語からの解放

文法用語は体系と共に変わります。話すための新しい文法である本書には、多くの古い用語は不要です。その結果、この本では日常語の域を出る特殊な文法用語はほとんど出できません。みなさんは使えない文法用語を学ぶための不毛な時間を使うことなく、安心して英語理解に邁進することができます。

② 文を作るための簡単な原則を解説

英語は「配置のことば」です。文のどこに要素を配置するかが大変重要なことです。簡単な配置原則を知ることによって、容易に英語文を口にすることができるようになります。本書の文法体系はこの配置原則に貴かれています。いくつかの簡単な原則をつかむことによって、さまざまな文法事項を自然に・深く・効率的に理解し、使いこなすことができるようになります。

③ 項目の順序性

従来の文法書は、「英語百科辞典」を意図しています。その結果すべての項目は特に学習順序を意図することなくバラバラに並んでいます。それに対し本書は、英語を理解する為に最適な順に項目を並べています。Chapter 1が最も本質的で重要な章。この箇所だけでも読み終われば、英語がグッと身近に感じられるはずです。

④ すべての形に意識を通させました

従来の文法書で紹介してきたさまざまな文には、それが使われる特有の意識があります。その意識を学ばずに「it...for...to」「使役構文」「SVOO」などと形だけを学んでも、それほど実践の役には立ちません。文は常に心を起点として形作られるのですから。本書は、代表的な文の形すべてに「こういう気持ちでこの文は作られているんだよ」という意識を与えています。そうやって話せる英語を目指すのです。

⑤ すべての表現に意識を通させました

日本語と全く同じように、英単語など英語表現にもそれを使う意識が常に伴っています。some, several, a number of は「いくつかる」と訳すことが可能ですが、訳を覚えるだけでは会話で使うことなどできません。どういった意識で発せられる「いくつかる」なのかを知る必要があります。本書では紙数の許す限り、会話で自信をもって使えるように意識・ニュアンスまで踏み込んだ解説をほどこしました。また特に習得が難しい「基礎語」と呼ばれるものについては、セクションを設けまとめて説明をしています。あなたの英単語の本当の意味にきっと驚かれるはずです。

⑥「なぜ」に答えました

従来の文法書では、単に文法現象が羅列され、どうしてそんなことが起こるのか、ネイティブはどう意識しているのかがおざなりにされるケースが目立ちます。本書では可能な限り、学習者が抱く「なぜ」にお答えしています。本書を読み終わる頃には「英語には理不尽な規則などない」と思って戴けるのではないかでしょうか。

⑦実用に役立つ例文

話せる英語を目指す本としてはあたりまえのことですが、本書の例文はほぼすべて（意図的に古いやういは不自然な使い方を提示する場合を除き）完全に実用に足る自然な文です。文法書によつては現在ほぼ使われない古い形式にページを費やしていることもあります。どう考へても「誰が言うんだよ」などという文が並んでいることすらあります。それに対し本書には「明日会話で使える」文が並んでいます。また、今回はクリス（共著者）に、大学受験でよく使われる単語を多用するようにリクエストしました。もちろん市販の大学受験単語集では、「いつ使うんだよ」というような単語ちたくさん並んでおり、こうした単語は避けておきましたが。

⑧イラストの多用

外国語学習では、しばしばネイティブに絵を描いて賣うだけでスッと意味が納得できることがあります。「百聞は一見に如かず」ということです。本書でも絵はてんこ盛りに多用されています。プロに任せるとなかなか意図が伝わらないことがあるので、全部自分で描きました。うーむ。つかれた。

本書の使い方

本書は、特別な文法用語を排除しているため、中学校卒業程度の英語力があれば誰でも始めることができます。以下のことにご注意ください。

①最初から順に読むことを基本とします

本書は通常の文法書とは異なり、英語を最大限に効率よく吸収する章立てを考慮しています。できる限り順序よくお読みください。以前の章の内容が

基礎となり展開している場合があるからです。

ふつうの文法書は、退屈でとても最初から読み通す気にはなりません。私だって読めません。ですが、この本なら順序よく面白く読み進めることができますよ。「そうだったのか」の発見が随所にあるはずですから。

②序章「英文法の歩き方」は必ずお読みください

本書の内容は、大変重要ないくつかの配置原則に基づいています。読者の方々が英語の森で悩まないように、配置原則をまずすべて説明したのが、「CHAPTER 0：英文法の歩き方」です。必ずお読みくださいね。

③さまざまな種類のコラム

本書の解説は、本論と——かなりの数を配した——コラムで成り立っています。コラムにはさまざまな種類がありますが、P.44 の説明を日安に取捨選択しながら読み進めてください。最初から細かなコラムをすべて読むことはありませんよ。ま、面白いとは思うんだけど。

④繰り返し音読

英語を話すためには、文の形と意識の運び方、リズムに習熟する必要があります。その為、しばしば例文の音読を勧めている場合があります。そうした箇所では必ず「声に出して」指示に従いながら音読を重ねてください。時間があれば、暗唱してもいいでしょう。遠回りなようでも、声に出して読む。頭だけで理解しようがない。それが、話す英語への最短距離です。

⑤高校生なら1週間から10日

外国語学習は理屈ではありません。頭の中に十分な語彙力と、使いこなせる文の形を刻み込むことが重要です。英語を話したいなら、文法はなるべく短期間に終わらせる必要があるということです。高校生なら10日以内に本書を読み破り、英語の輪郭をつかみとるくらいの知性と勢いが必要です。大丈夫だよ。カンタンだから。

もくじ

CONTENTS

CHAPTER 0 英文法の歩き方

初めての「話すための英文法」	14
① まずは4つの基本文型を知る	20
② 修飾方向を身につける	23
③ 例三ルール（前から後定）	25
④ 例四ルール（後ろから前定）	27
⑤ 内混じる規則	29
○ 配置を崩してみる	32
◎ 時表現をマスターする	35

PART 1 英語文の骨格

CHAPTER 1 主語・動詞・基本文型

SECTION 1：主語	
① 「主語」とは	50
② 生活のなかの主語	51
③ 生活の「骨格」は特にない	52
④ 平生持主語	55
SECTION 2：動詞	
① 動詞の基礎知識（2種類の動詞）	56
② 動詞の変化形	57
③ 基本動詞のイメージ	65
SECTION 3：基本文型①：他動型	
① 他動型	66
SECTION 4：基本文型②：自動型	
① 自動型	69
② 前置詞とのコンビネーション	69
SECTION 5：基本文型③：説明型	
① 由明型（be動詞）	71
② 説明型の由因	73
③ 説明型（一般動詞）	74

SECTION 6：基本文型④：接与型

① 接与型	77
② 使わせあらわす、もう1つの用	78
SECTION 7：目的説明文	
① 目的説明文（基礎）	86
② 知覚があらわす動詞と共に	88
③ make, have, letと共に	89
④ to不定詞を説明語句に	93
SECTION 8：レポート文	
① レポート文基礎：the型	95
② whether/が型・wh型での表現	98
③ 渡さし検問文	100
④ コミュニケーション動詞のクセ	102
SECTION 9：命令文	
① 命令文の形・意味	103
② 禁止の命令・勧誘	104
SECTION 10：There文	
① there文の用・意味	108
② 2つの「～がある・いる」	109
◆ 基本動詞	111

CHAPTER 2 名詞

SECTION 1：可算名詞・不可算名詞	
① 可算・不可算の判断	125
② 可算名詞・不可算名詞の特徴	137
③ 不可算名詞の「働き方」	140
④ 可算・不可算は個體と実	142
SECTION 2：単数名詞・複数名詞	
① 単数形・複数形の作り方（接頭語化）	151
② 単数ととらえる・複数ととらえる	154
③ 単数・複数の上手な選択	157
SECTION 3：限定詞	
① 限定なしの名詞	160
② the	162
③ a/an	172
④ some	178
⑤ any	181
⑥ all, every, each	183
⑦ no	187

① both...either...neither

② 量表現	190
③ 指示の this, that	196
④ 単数で使える限定詞	198

SECTION 4：代名詞

① 代名詞の基本	201
② 主格の使い方	203
③ 前者格の使い方	203
④ 目的格の使い方	207
⑤ 所有代名詞の使い方	207
⑥ -self形の使い方	208
⑦ き	209
⑧ 人々一起をあらわす代名詞	217
⑨ 前に出てきた單語の代わりをする one	218
⑩ 連有名詞	220

—接続をあらわす副詞

② 並列の重ね方	254
----------	-----

SECTION 2：慣用の副詞

① 既定一般	257
② 程度副詞	259
③ 先駆副詞	261
④ 優越の並用いをあらわす副詞	264
⑤ 評論・態度をあらわす副詞	266
◆ 基本副詞	269

CHAPTER 5

比較

SECTION 1：同等レベルをあらわす	
① as-as の基本	283
② 律正語句と共に as-as を使う	285
③ as-as 在(無い)れる	287

SECTION 2：比較級表現：「より～」

① 比較級の基本	299
② 連用語句と共に比較級を使う	301
③ 比較級を使い切る	303

SECTION 3：最高級表現：「最も～」

① 最上級を使った基本型	310
② 最上級と限定語句と共に使う	312
③ 最上級の比較型：「これまで」とのコンビネーション	313

PART 2 修飾

CHAPTER 3 形容詞

SECTION 1：前から限定

① 限定する	234
② 重ねて修飾	234

SECTION 2：後ろから説明

① 説明を加える	237
② 説明をほえさずその他の者	238

SECTION 3：何でも形容詞

① 名詞による修飾	242
② 例句-ing形での修飾	242
③ 過去分詞形での修飾	243
④ -ing形 vs 過去分詞形（接続をあらわす）	244

CHAPTER 4 副詞

SECTION 1：説明の副詞

① 附帯あらわす副詞	250
② 場所をあらわす副詞	251
③ 「どのように」「どれくらい」	251

CHAPTER 6

否定

SECTION 1：not は前から

① 否定文の作り方	317
② 使ひを否定する	320

SECTION 2：「強い単語」とのコンビネーション

SECTION 3：not のクセ	
① 「思う」えて表現し	324
② notを含んだ文に対する受け答え：notは肯定に入れない	325

③ notを含んだ文に対する受け答え：notを表示する

④ 文の代わりにnot	326
-------------	-----

⑤ notを含んだ文に対する受け答え：notを表示する	327
-----------------------------	-----

CHAPTER 7 助動詞

SECTION 1：助動詞基礎

- Ⓐ 懂得文と否定文 334
- Ⓑ 助動詞の変形 335

SECTION 2：主要助動詞の意味① MUST

- Ⓐ ～しなければならない（義務） 336
- Ⓑ ～しならダメ（禁止） 337
- Ⓒ ～しなくちゃいけない（強いおず心） 337
- Ⓓ ～にちがいない（確実） 337

SECTION 3：主要助動詞の意味② MAY

- Ⓐ ～してよい（許可） 339
- Ⓑ ～してはいけません（禁止） 340
- Ⓒ ～しますように（お願） 340
- Ⓓ ～かもしれない（推量） 341

SECTION 4：主要助動詞の意味③ WILL

- Ⓐ ～だろう（予測） 342
- Ⓑ ～するものだ（法則・範例） 344
- Ⓒ ～するよ（意志） 345

SECTION 5：主要助動詞の意味④ CAN

- Ⓐ ～できる（能力） 346
- Ⓑ ～している（許可） 347
- Ⓒ ～しうる（とさに～することもある）
(潜在的性質) 348

SECTION 6：主要助動詞の意味⑤ SHALL

- Ⓐ 法律 350
- Ⓑ 必ず～になる（便箈） 351
- Ⓒ Shall I ~? Shall we ~? (～しましょ) 351

SECTION 7：主要助動詞の意味⑥ SHOULD

- Ⓐ ～すべき（義務・アドバイス） 353
- Ⓑ ～はず（確信） 354

SECTION 8：助動詞相当のフレーズ

- Ⓐ have to 360
- Ⓑ be able to 363
- Ⓒ had better / had best + 動詞原形 365
- Ⓓ used to 366

CHAPTER 8 前置詞

SECTION 1：前置詞基礎

- Ⓐ 前置詞の位置と働き 369

SECTION 2：前置詞の選択

- Ⓐ 基本前置詞 379

CHAPTER 9 WH修飾

SECTION 1：人指定の who

- Ⓐ 生物の中に組み合わせる 416
- Ⓑ 目的語の中に組み合わせる 417
- Ⓒ 「whose + 名詞」の形 418

SECTION 2：モノ指定の which

- Ⓐ 主題の中に組み合わせる 421
- Ⓑ 目的語の中に組み合わせる 422
- Ⓒ 「whose + 名詞」の形 422

SECTION 3：wh語を使わないケース - that を使う ケースなど

- Ⓐ wh語を使わないケース 424
- Ⓑ that を使うケース 425

SECTION 4：where, when, why の wh修飾

- Ⓐ 「場所」の where 429
- Ⓑ 「時間」の when 430
- Ⓒ 「理由」の why 431

SECTION 5：ハイレベル wh修飾

- Ⓐ 事に埋め込まれた式 433

SECTION 6：カンマ付 wh修飾

- Ⓐ カンマ付 wh修飾は主語を加える 435
- Ⓑ カンマ付 wh修飾の問題 436

PART 3 自由な要素

CHAPTER 10 動詞 -ING形

SECTION 1：名詞位置での動詞 -ing形

- Ⓐ 主語として 445
- Ⓑ 目的語として 445
- Ⓒ 言葉の活性化として 446

SECTION 2：修飾位置での動詞 -ing形

- Ⓐ 形容語の -ing形 (進行形) 447
- Ⓑ 名詞の説明 448
- Ⓒ 目的語説明 449
- Ⓓ 動詞句の説明 450
- Ⓔ 文の説明 450

CHAPTER 11 TO 不定詞

SECTION 1：名詞位置での to 不定詞

- Ⓐ 生物として 455
- Ⓑ 目的語として 457

SECTION 2：修飾位置での to 不定詞①

- Ⓐ come/get + to 不定詞 460
- Ⓑ 独立型の to 不定詞 461
- Ⓒ 目的語説明 463

SECTION 3：修飾位置での to 不定詞②

- Ⓐ 動詞句の説明と「足りない」を使う 464
- Ⓑ 名詞句の説明 467
- Ⓒ 手筋句の説明 468
- Ⓓ wh語 + to 不定詞 469

SECTION 4：to 不定詞が使われるその他の形

- Ⓐ 「～ + to 不定詞」のコンビネーション 471
- Ⓑ too ~ to ... (= ～すぎて ～できない) 472
- Ⓒ to + 完了形 473
- Ⓓ to 不定詞の否定 474

CHAPTER 12 過去分詞形

SECTION 1：受動文とは？

- Ⓐ 受動文という「現象」 477
- Ⓑ 受動文が込んで使われるケース 477

SECTION 2：受動文基礎

- Ⓐ 受動文の基本型 481
- Ⓑ 受動文のあらわし「現」・疑問文・否定文 482

SECTION 3：受動文のバリエーション

- Ⓐ 徒手をあらわす受動文 486
- Ⓑ 目的語説明の受動文 487
- Ⓒ to 不定詞と受動文のコンビネーション 488
- Ⓓ 動詞句の受動文 491

SECTION 4：過去分詞で修飾

- Ⓐ be動詞以外の形容詞で用いる過去分詞 492
- Ⓑ 自由形容詞 493
- Ⓒ 過去分詞、その他の修飾 494

CHAPTER 13 節

SECTION 1：主語位置での節

- Ⓐ タグの節 499

④ 二つの whether

- Ⓐ whether 500

SECTION 2：修飾語位置での節

- Ⓐ 形容語の節 502
- Ⓑ 形容句(句)を説明 (レポート文) 502
- Ⓒ 名詞句の説明 504

PART 4 配置転換

CHAPTER 14 疑問文

SECTION 1：基本疑問文

- Ⓐ 助動詞あり 513
- Ⓑ 助動詞なし 514
- Ⓒ be動詞 514
- Ⓓ 疑問文への対応 515

SECTION 2：否定疑問文

- Ⓐ 否定疑問文の作り方 517

SECTION 3：付加疑問文

- Ⓐ 付加疑問文の基本 518
- Ⓑ ちょっとくつづけるテクニック 519

SECTION 4：あいつち疑問文

- Ⓐ 白言を受ける疑問文 522

SECTION 5：wh疑問文① しくみ

- Ⓐ wh疑問文 523

SECTION 6：wh疑問文② 基礎

- Ⓐ wh疑問文の基礎 525
- Ⓑ 「時・場所・方法・理由」を尋ねる場合 526
- Ⓒ 前置詞の白目的を尋ねる 527
- Ⓓ 生活を尋ねる 528
- Ⓔ 「大きな」wh語 528

SECTION 7：wh疑問文③ 応用

- Ⓐ レポート文内で尋ねる 530
- Ⓑ その他の複雑なwh疑問文 531
- Ⓒ wh語を使って質問を出し 532

SECTION 8：疑問ではない疑問文

- Ⓐ はめの疑問文 533
- Ⓑ 疑問の意味ではない疑問文 534

CHAPTER 15 さまざまな配置転換

SECTION 1：主語一助動詞倒置

- Ⓐ (主語一助動詞) も形容の活用・基本 536
- Ⓑ 否定的想句・否定 537
- Ⓒ 現在形・過去 539
- Ⓓ Should + 他語 540

SECTION 2：感嘆文・その他

- Ⓐ 感嘆文 541
- Ⓑ その他の配置転換 542

PART 5 時表現

CHAPTER 16 時表現

SECTION 1：時のない文

- Ⓐ 前者文 545
- Ⓑ 異次・異次・将来など未だわざ節 545

SECTION 2：現在形

- Ⓐ 現在を含む広く成り立つ状況 547
- Ⓑ 見出の習慣 548
- Ⓒ 思考・感情 549
- Ⓓ 翻訳 550
- Ⓔ 現在形・その他のポイント 551

SECTION 3：過去形

- Ⓐ 丁寧表現 555
- Ⓑ 指示的な過去の動詞形 556
- Ⓒ 過去形 557

SECTION 4：進行形 (be + -ing)

- Ⓐ 運動的な状況の描写 559
- Ⓑ 現場 559
- Ⓒ 著者の立場 563
- Ⓓ 進行形・その他の表現結果
～してはっきりいる 564

SECTION 5：現在完了形 (have + 過去分詞)

- Ⓐ 間接に起こったできごとをあらわす 566
- Ⓑ 経験 (～したことがある) 567

- Ⓐ 接続 (ずっと～している) 569
- Ⓑ 結果 (「だから今～た」という意味) 571

SECTION 6：完了形バリエーション

- Ⓐ 現在完了形 575
- Ⓑ 助動詞 + 完了形 577
- Ⓒ 現在完了進行形 579

SECTION 7：未来

- Ⓐ will の様く未來 581
- Ⓑ be going to (+ 動詞原形) の様く未來 582
- Ⓒ 進行形が様く未來 585
- Ⓓ 現在形のあらわす未來 586
- Ⓔ will + 進行形 (will be -ing) を使う未來 587
- Ⓕ be to の様く未來 588

SECTION 8：仮定法

- Ⓐ 強き述べるモード 590
- Ⓑ 仮定法の心理 591
- Ⓒ 仮定法の作り方①：基準 592
- Ⓓ 仮定法の作り方②：If を用いた假定法文 595

SECTION 9：時制の一一致

- Ⓐ 時制の一一致：基礎 600
- Ⓑ 時制の一一致と助動詞・仮定法 603
- Ⓒ 時制の一一致が起こらないケース 606

PART 6 文の流れ

CHAPTER 17 接続詞

- SECTION 1：等位接続
 - Ⓐ 繰りの接続 614
 - Ⓑ 逆行の接続 617
 - Ⓒ 直接の接続 620

SECTION 2：従位接続

- Ⓐ 条件 622
- Ⓑ 理由 (原因) 628
- Ⓒ 目的 632
- Ⓓ 量子 633
- Ⓔ コントラスト 636
- Ⓕ 時間への位置づけ 637
- Ⓖ 多様な接続詞 640

CHAPTER 18 流れを整える

—代用・省略・注釈・レポート文テクニック

SECTION 1：重なりを省く・注釈を加える

- Ⓐ 内用 647
- Ⓑ 出版 649
- Ⓒ 注釈を加える (四捨・挿入) 651

SECTION 2：レポートする

- Ⓐ 2通りのレポート (直接説法と間接説法) 654
- Ⓑ 再構成のテクニック 657

巻末付録

- 付録1：不規則動詞変化表 664
- 付録2：数の表現 666
- 付録3：文内で用いられる記号 670
- 付録4：参考文献 672
- 付録5：MEMO 674～681

CHAPTER

0

英文法の歩き方

A GUIDED WALK THROUGH ENGLISH GRAMMAR



英語はとても単純なことばです。だけどその単純さに気がつかなければ大変な回り道をしてしまうことばでもあります。この章で、英語がどんなことばなのか、おおざっぱにつかんでしまいましょう。ここで「歩き方」を学べば、PART 1以下の細かな文法解説もすぐに理解できるはずですよ。



初めての「話すための英文法」

みなさんこんにちは。みなさんが手に取られたこの文法書には、書き手である私にとって非常に高いハードルが設定されています。それは、

話せる英語を最速で達成するための文法書

というハードルです。従来の受験参考書は、大学受験の突破が目標でした。それは「英文和訳ができればいい」程度の目標と言ってもいいでしょう。その結果、大学生になっても、ビジネスマンになってすら「英語が話せない」という事態を招来してきました。でも、英文和訳ができればいい——そんな英語力は誰も求めていないでしょう？

英語は話すことができて、初めて役に立つのです。

本書は大学生や社会人のみなさんはもちろん、大学受験をひかえた高校生(受験生)も対象にしています。受験に成功すると同時に、英語を書き、英語を話す、高い英語力を身につけてもらう。それが本書の目標なのです。「受験英語なんて目標にするな」「受験を乗り越えたらぐらいで満足するな」ということです。

さて、英文法の目標を、英文和訳から「最速」で「話す力」へとハードルを上げたとき、ハッキリ見えることがあります。それは、

システムを理解しなければならない

という事実です。「to 不定詞の名詞的用法」だの「動名詞」だの、いくら詳しく覚えたとしても、それはせいぜい英文和訳に役立つ程度の理解です。話す

力にはなりません。ネイティブ(英語母国語話者・ネイティブスピーカー)のもつシンプルなシステムを理解する。それだけで英語力は時間をかけずとも飛躍的に上がります。

そして——おそらくみなさん驚かれることと思いますが——ネイティブのシステムを理解できれば、今までみなさんを苦しめてきた難解な文法事項も、簡単に、感覚的に、あたりまえの現象として理解することができます。それが話す文法を身につけるということなのです。

話すための文法がマスターできたなら、もちろん、リスニング・読解の実力も飛躍的に上がります。話し手、書き手のネイティブと同じ見方で、英文を聞き・読むことがリスニング・読解の要諦だからです。

本書は従来の学校英文法全体を組みかえ、「最速」で「話す力」を達成するための順序を採用しています。その最も重要なスタートがこの序章「英文法の歩き方」です。

詳細はさておき、単語学習はさておき、英語のもつシンプルなシステムを英語全域にわたって解説する——それが「英文法の歩き方」です。広大な英語という世界を覗く、話すために必要な必須のシステム解説。必ず読んでください。2時間で英語がわかるようになる。話せる気がきっとするはずですよ。細かな話は後回し、あとまーし。

実は、英語で話すための必須文法事項は、次の4つしかありません。

- A 基本文型 … すべての英語文を形作る4つの型
- B 修飾方向 … 各部の修飾を行う2つの修飾方向
- C 配置転換 … 特殊な意図：感情を込めるための、表現の配置転換
- D 時表現 … 文内容がいつのことであるのかを示す時表現

この4つのポイントさえおさえておけば、どんな英語文でも作ることができます。あとは表現力の勝負、それが英語ということばなのです。

さあ、それではさっそくそれぞれの項目を眺めていくことにしましょう。

A. 基本文型

基本本文型は文の設計図。文全体の意味がどこを決定します。英語の最重要部。

何かに「力が及ぶ」、それをあらわすのが「他動型」。**walk** (歩く) の力が **my dog** に向かう。これから「歩かせる=散歩させる」。自動型なら **I walk.** (私は歩きます) ——ただの動作。型が文全体の意味を決めるんだよ。

I walk my dog every day.

主 動 目

B. 修飾方向

基本本文型各部を、色とりどりに修飾します。「前から修飾」「後ろから修飾」の2種類のみ。置かれる位置によって、機能が異なります。どんな修飾語でも、前に置かれれば後ろを限定、後ろに置かれれば前を説明するように働きます。

限定 説明

C. 配置転換

疑問文・感想文など、特別な意図や感情を文に乗せるために、文要素の配置を変えます。

Can you speak English?

my はただの犬じゃなくて「私の犬」と、**dog** を限定しているよね。

every day は説明だから後ろから。**I ... dog** がいつ起こったのかを追加説明しています。

D. 時表現

できごとを時線上に位置づけるのが時表現。現在形・過去形・現在完了形を中心にバリエーションを広げていきましょう。

【習慣】

それぞれの時表現は、さまざまな使い方をもっています。

【現在形】 【過去形】 【現在完了形】



A まずは4つの基本文型を知る

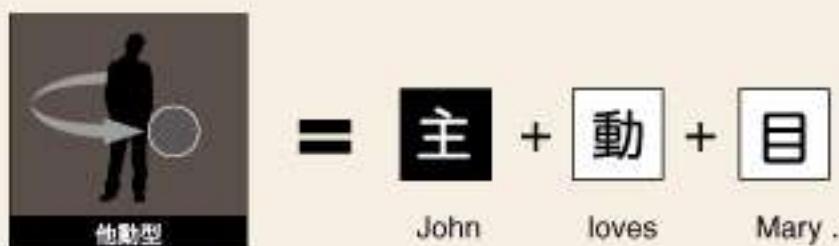
—英語は配置のことば—

英 語をすぐに話せるようになりたい？ それならまず身につけなければならぬのは、4つの「基本文型」です。基本文型は英文の設計図。すべての英文はこの設計図に基づいて作られています。この設計図さえ手に入れれば——多少のぎこちなさはあったとしても——伝わる英語を話すことができます。



英語の基本文型

英語にこうした基本文型があるのは、英語が配置のことばだからです。他動型を例にとりましょう。この型は「主語+動詞+目的語」という配置でできています。



主語は——文の中心・主題。目的語は、動詞のあらわす動作がどこに向かっているのかを示す要素。主語・目的語には、John (ジョン), the dog (その犬) などモノをあらわす表現(名詞)が使われます。さて、この John loves Mary. とその日本語訳を比べてみましょう。

(英) John loves Mary.

(日) ジョンはメアリーを愛しています。

英語と日本語に、大きな違いがあることがわかりますか？ 日本語では「は」や「を」が、文中で名詞がどんな働きをしているのかを示しています。文中で場所を入れかえても——だから——文の意味は変わりません。

メアリーをジョンは愛しています。

愛しているんだよ、ジョンはメアリーを。

ほら、意味は通じるでしょう？

一方、「～は・～を」のない英語は、場所によって意味を判断します。

Mary loves John. (メアリーはジョンを愛しています)**Loves Mary John.** (意味不明)

このように、配置を変えると意味が変わってしまうのです。

場所と意味がガッチリ結び付いた配置のことば。それが英語です。だからこそ、主語や目的語など文の要素がどこに・いくつくるのかを示す基本文型が、英文の絶対の基礎となっているのです。基本文型は文の設計図なのです。

基本文型は文全体の意味を決定します。なにしろ設計図ですからね。他動型は「力を及ぼす」。動詞による動作が目的語に力を及ぼす形です。自動型は「単なる動作」、説明型は「主語の説明」、授与型は「手渡し」。基本文型とのあらわす意味は、一対一対応。キッチリ結び付いています。次のペアを見てみましょう。

I walk my dog every day. (僕は毎日犬を散歩させるよ) 【他動型】

I walk every day. (僕は毎日散歩するんだよ) 【自動型】

他動型なら walk (歩く) の力が my dog に及ぶ「犬を歩かせる=散歩させる」となります。

自動型なら単なる動きですから、「私は歩きます」となるわけです。



- ③ I got a fantastic present. (すごいプレゼントをもらったよ) 【他動型】

国 目

- ④ I got there at 3 o'clock. (私は3時にそこに着いたよ) 【自動型】

国

- ⑤ I'll get you a nice T-shirt. (君にすてきなTシャツをあげる) 【授与型】

国 目 国

同じ動詞を使っていても、他動型の③は「プレゼントを手に入れる」。④は、a fantastic present に「力が及んで」いますね。⑤は単なる動作。授与型の⑤は「君にTシャツをあげるよ」——「手渡し」の意味となっています(get の意味については☞P.118)。文の意味は、表現の配置を記した設計図——基本文型——が決める。だからこそ「話せる英語」へのファーストステップは、基本文型なのです。

設計図なしで、複雑なプラモデルを組み立てる事はまずできません。文も同じ。基本文型を知らずに文を組み立てることはできないのです。基本文型は **PART 0** で徹底的にマスターすることにしましょう。お楽しみに！



● 基本文型で文の意味を判断する

次の文を見てみましょう。

John xxxx her a necklace.

さあ、意味はわかりましたか？ ははは。「xxxx なんて単語ないからわからない」？ ネイティブには見当がつくんですよ。それはこの文に her と a necklace という2つの目的語があるから。「授与型だな」とわかるから、「ははあ、ジョンは彼女にネックレスを『買ってあげた』『見つけてあげた』とかどううな」と想定できるのです。ネイティブは基本文型から文の意味を判断する。基本文型の重要性、もう納得できましたね。



B 修飾方向を身につける

——修飾の2方向——

基

本文型がマスターできたなら、次のステップは「修飾」。「少年」という代わりに「かわいい少年」。「歩く」の代わりに「ゆっくりと歩く」。「学校に行きました」を「昨日学校に行きました」と詳しく説明する。基本文型の各要素にとりつき詳しく述べる、それが「修飾」です。

= 修飾語



英語の修飾概念図

おおざっぱな内容だけなら、基本文型の知識があれば話すことができます。ですが、詳しく・繊細に文を紡ぎたいのなら、修飾のテクニックは欠かせません。基本はたったの2分。さっそくやってみよっか。

修飾のテクニックは、「前」に置くかそれとも「後」に置くか、配置のテクニックです。英語は配置のことば。文の要素の配置によって文全体の意味が作られるのでしたね（基本文型）。修飾も同じです。修飾要素をどこに置くか——配置がとても重要なのです。

次の例を見てみましょう。名詞（修飾のターゲット）を修飾する形容詞 red (赤い) に注目してみてください。

a) That is a **red sweater**. (あれは赤いセーターです)

b) **That sweater** is red. (あのセーターは赤い)

a) では修飾のターゲット（修飾される語句）を前から、b) では後ろから修

飾しています。前と後ろで red の働きが違うことに気がつきましたか？

前に置く修飾語は **限定** の働き。@は「青でも白でもない赤いセーター」。ある種類のセーターに意味を限定しています。



一方、後ろに置いた修飾語は **説明** の働き。@は「あのセーターは赤いよね」と、単に that sweater を説明しています。

② To everyone's surprise, a 12-year-old boy won the tournament.

(誰もが驚いたことに、12歳の少年がトーナメントで優勝した)

③ My son is 12 years old.

(僕の息子は12歳です)

②の 12-year-old は限定。ただの「少年」ではありません。「**12歳の少年**」。一方、③は my son を「12歳ですよ」と説明。「前から限定(限定ルール)」・「後ろから説明(説明ルール)」——はい、2分。これで基礎は終わりです。配置のことば、英語の修飾テクニックはとってもカンタンなんですよ。

実は、この2つのルールは形容詞が名詞を修飾する場合に限らず、どんな修飾にも成り立つ無敵の汎用規則です。the, aなどの限定詞が名詞を修飾するときにも、副詞が文を修飾するときにも——修飾であるならありとあらゆるケースにあてはまる規則なのです。この2分間は、みなさんの話す能力を飛躍的に増大させる、記念すべき2分間だったのですよ。

限定ルール・説明ルールは PART 2 で徹底的に解説します。でもその前に使用例をいくつか眺めていきましょう。そのポイントをしっかりとつかんでくださいね。

① 限定ルール(前から限定)

限定ルールは、前からの修飾はターゲットを限定するように働くというルール。このルールは、形容詞—名詞以外の修飾関係にも、常に成り立ちます。英語にはさまざまな修飾がありますが、限定の働きをもった修飾語は常にターゲットの前に置かれるのです。



④ Nancy is **very tall**.

【翻訳】ナンシーはとても背が高い P.259

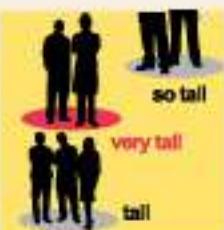
(ナンシーはとても背が高い)

very, so, really

など「程度」をあらわす副詞は、前に置かれる典型的な語句です。なぜだかわかりますか？

それはこれらの語句が **限定** の働きをもつからです。

very tall は、単に背が高いわけではなく「**とても背が高い**」。そうした種類の背の高さに限定するからこそ、**very** は **tall** の前に置かれるのです。



⑤ I found **the dog**. 【翻訳】P.160

(僕がその犬を見つけたよ)

a(n), the, some など、限定詞も名詞の前に置きます。限定詞は、その名詞が文脈上どういった意味をもつのかを限定する語句。**the dog** (その犬)において **the** は、「(文脈上) ただ1つに決まる犬」と、**dog** を限定しています。限定する修飾はいつも前置きなのです。





⑤ She may be ill. [形容詞 P.330]

(彼女は病気かもしれない)

助動詞は常に動詞の前に置かれます。やはり動詞(句)の内容を限定するから。She is ill. と言えば「病気です」。ですが **may be ill** は「病気かもしれない」。may は「かもしれない」という種類の話なのですよ、と be ill を限定しているのです。**must be ill** なら「病気にちがいない」。助動詞を前に加えることによって、be 用をさまざまに限定できるのですよ。



⑥ The United States is an English-speaking country. [形容詞 P.2232]

(アメリカ合衆国は英語を話す国です)

最後に動詞-ing形を考えてみましょう。動詞-ing形は「～している」。I'm **studying**. (僕は勉強しています) など、「進行形」で有名な形です。だけど、前に置かれるときには、やはり限定。English-speaking country は「英語を話す国」。そうした種類の国だと限定しているのです。



限定ルールの意識は、種類を限定する意識。単に tall ではなく、very tall だよ。単なる dog ではなく the dog なのですよ——ターゲットの種類を明確に絞り込む意識で使われるルールなのです。

限定ルールの意識



② 説明ルール(後ろから説明)

「説明は後ろから」。それが説明ルール。英語では、ターゲットに説明を加えるとき、常に後ろに追記する形で修飾を行います。限定ルールが絞り込む意識であるのに対し、説明ルールは説明を加えていく意識。

a. John is a student. [説明型 P.271]
(ジョンは学生です)

説明ルールの典型例は、基本文型の説明型。be動詞文です。be動詞文は主語に説明を加える意識で作られる形な

のです。John に a student (学生の中の1人) で説明を加えて、John is a student. が作り出されます。同じように動詞-ing形(～している)や過去分詞形(～された)で説明を加えれば、「進行形」「受動形」を作ることができます。

- b. John is **yelling**. (ジョンは大声を出している) 【進行形 P.447】
- c. John was **bullied**. (ジョンはいじめられた) 【受動文 P.477】
- d. I met her **at the bus stop**. (彼女とバス停で会った) 【場所をあらわす副詞 P.251】
- e. I met her **at 7 pm**. (彼女と7時に会った) 【時をあらわす副詞 P.250】

場所・時をあらわす語句も、説明ルール。ターゲットの後に並べていきます。「僕彼女に会ったよ」。このできごとの場所を説明したい → at the bus stop を並べる。とても簡単ですね。

説明ルールを使えば、表現の幅が爆発的に広がります。動詞-ing形(～している)を使ってみましょう。この形は進行形だけに用いられる形ではありません。

- (1) **The boy yelling** is my brother. (大声を出している少年は僕の弟です)
 (2) He came into the classroom **yelling**. (彼は大声を出しながら教室に入ってきた)

The boy の後に置けば「大声を出している、ね」とその説明になり、came into the classroom の後に置けば「大声を出しながら、ね」とその動作の説明となります。説明ルールは英語を自由に話すために欠かすことのできないゴールデン・ルールなんですよ。



● 説明ルールの意識

説明ルールによる修飾は「欠乏感」——言い足りない、説明し足りないという意識と深くつながっています。この意識が働くとき、ターゲットの後に説明を追記していくのです。例えば、友人をパーティーに誘ってみましょう。

We are having a party. (パーティーをする予定です)

これではあきらかに不十分。友達はどこに行けばいいのか、わかりません。



(1) We are having a party **at The Savoy**. 【場所をあらわす副詞☞P.251】

(パーティーをする予定です。サボイホテルでね)

説明を加える意識から、ターゲットに at The Savoy が加えられていますよね。でも、まだまだこれでは友達はパーティーには行けません。「何時からなんだろう」時間も追記しましょう。

(2) We are having a party **at The Savoy from 18:00**. 【時をあらわす副詞☞P.250】

(パーティーをする予定です。サボイホテルでね。18:00から)

これでもまだダメ。いつの 18:00 だからわからないと出席はできません。そこで、

(3) We are having a party **at The Savoy from 18:00 **the day after tomorrow****.

(パーティーをする予定です。サボイホテルでね。18:00から、明日日のたよ)

これで完璧!



説明ルールの意識は、言い足りない、不十分な表現に説明を加えていく意識です。気軽にターゲットの後に説明を追記する——それができればみなさんのお仕事はネイティブレベルに大きく近づきます。

③ 穴埋め修飾

英語の修飾は、大きく分けて2つだけ——「前から限定」・「後ろから説明」。ここにもう1つ、「後ろから説明」の一種、「穴埋め修飾」のテクニックを加えます。



(3) This is the boy **Nancy loves**.

(この子が、ナンシーが愛している男の子です)

ターゲットの the boy と後続文 Nancy loves のあいだには、修飾関係がありますね。もちろん the boy を「ナンシーが愛している、ね」と後ろから説明しているわけですが、これが穴埋め修飾。後ろの文 Nancy loves に穴 (□) があいていることに気がつきましたか？

a) This is the boy **Nancy loves** □.

love は「～を愛する」。I love you のように、愛の向かう対象（目的語）が必要です。だけどこの文には、それが欠けていますよね——これが穴。穴とそれを埋める the boy が組み合わされ、「ナンシーが愛している男の子」——穴埋めの修飾というわけです。

今度は主語の位置に穴をあけてみましょう。

b) This is the boy **who** □ loves Nancy.

(この子が、ナンシーを愛している少年です)

the boy の役割が変わりましたね。「□はナンシーを愛している」の□を the boy が埋める関係になって、「ナンシーを愛している少年」という意味になっています。こうした修飾を私は「wh修飾」とよんでいます。who, which など、wh語を使う（ことがある）修飾だから。とはいって、wh語は脇役。大切なのは、穴埋め関係なんですよ【wh修飾☞P.414】。

穴埋め修飾は、wh修飾に限らず広く用いられる修飾方法です。to不定詞と共に使われる例もあげておきましょう。

- (c) Do you have **anything to drink** □? (なんでもいいから飲み物ある?)
- (d) I need **someone to go out with** □. (つき合ってくれる人が必要だ)

「□を飲む」「□とデートをする」の穴(□)に anything(何か), someone(誰か)が入って、「飲む何か」「つき合ってくれる誰か」。ほら、とってもポピュラーな修飾方法なんですよ。



● 配置のことば、英語

基本文型と2つの修飾方向を理解したみなさんは、すでに英語ということばの本質に気がついているはず。英語はどこまで行っても、配置のことばだという本質です。

英語表現は、常に文中の配置によって役割が決まってきます。基本文型によって、主語・目的語という役割が表現に与えられるのです。ターゲットとの前後関係によって、限定あるいは説明という役割が与えられるのです。

たぬしに red(赤)という単語を考えてみましょうか。この単語、単独で、

(1) red

とボツンと置かれても、それが「赤」なのか「赤い」なのか「赤く」なのかはわかりません。

- (2) Red is the color of passion. (赤は情熱の色) [名詞]
 (3) I love red. (愛は赤いだけ) [名詞]
 (4) I love that red dress. (あの赤いドレスだけ) [限定]
 (5) That dress is red. (あのドレスは赤い) [説明]
 (6) The iron is burning red. (鉄が赤く燃えているよ) [説明]



redの役割が、文中の位置によって判断されていることがわかりますか？ (2), (3)が「赤」という名詞になるのは、主語・目的語の位置に置かれているからです(主語・目的語には名詞が使われるのでしたね→P20)。(4)はターゲット dress の前。だから「青でも黄色でもなく、赤いドレス」と限定。(5), (6)はターゲットの後に置かれて説明。 (5)は that dress を説明するから「赤い」。(6)は burning(燃えている)を説明するから「赤く」。

日本語は「赤」「赤い」「赤く」と語尾を変化させることによって文中での機能をあら

わしますが、英語はそれと同じことを配置によって行っているのです。もう1つ例をあげましょう。

- (7) Google is an Internet search and advertising company.

(グーグルはインターネット検索と広告の会社です)

- (8) I googled him. (彼は既にググって)

検索で有名な Google という会社名。会社名ですから動詞の場所にくれば「ググる(グーグルで検索する)」という動詞の意味になる。それが英語。

英語は配置のことば——それが英語の本質です。配置がギア(轍車)になって文を動かすことは、それが英語。ネイティブは無意識のうちに知ってるよ。英語が話せる人は誰だってわかってるよ。そして、ここまで読んでくれたみなさんにも十分伝わっているはず。みなさんはすでに英語をつかんでいるんですよ。



基本文型は4つ。修飾ルールは2つだけ。英語の配置はそれで十分。さあ、それでは次のステップに進みましょう。



C 配置を崩してみる

—配置転換—

英 語の配置を身につけてくれたみなさんが登るべき次のステップは、「配置転換」です。基本文型・修飾ルールによって作られた、鉄壁の配置は、しばしば意図的に崩されることがあります。典型的な例は疑問文。



(a) Are you a student?

(あなたは学生ですか？)

この文では、通常の配置 You are a student. から be動詞が文頭に出されていますね。なぜ疑問文となると配置が変わるのでしょう——考えたことがありますか。

その理由が、最後のルール「配置転換ルール」。「配置が動かされるときには、感情・意図がある」というルールです。

実は、疑問文の語順(倒置形)は疑問文専用の形ではありません。感情が大きく動いたときに使われる形。

(b) Am I surprised!

この文は、「びいいくりしたよ！」、「I am really [so/very] surprised.」(本当に[すごく/とても]驚いたよ) よりもはるかに強い感情の動きがあらわす文なのです。こうした文は特に珍しい文ではありません。倒置形を使えば自由に作れます。



(c) Was I furious!

(あつたまたよ！)

(d) Did I make a fool of myself!

(バッかなことしちゃったも！)

さて、疑問文を使うとき、私たちは必ず「知りたい・教えて！」と感情を動かしています。だから倒置形が使われるというわけ。疑問文は、ただ規則だからその形になるわけではないのです。配置転換ルールにしたがった、あたりまえの形なのだというわけです。[翻訳文](#) (P.512)

大きな感情の動きをあらわす感嘆文も、配置転換ルールの典型です。

(e) What a nice camera you have!

[翻訳文](#) (P.54)

(You have a nice camera.)

(なんてすてきなカメラをもっているんだ！)

感嘆文は、()内の通常の位置から what, how を使って表現を前置した配置転換の形。配置を変える——そこに感嘆の気持ちが宿っているのです。

さて、疑問文や感嘆文のような「派手な」配置転換以外でも、定位位置から要素が動かされるときには——もちろん——感情・意図が伴います。次の yesterday に注目しましょう。

(f) Yesterday, we had a party.

(昨日、パーティーをしたんだ)

時をあらわす表現は、文末が定位位置 ([P.250](#))。その配置が崩れ、前に出されているのは「昨日のことなんだけどね、僕らは…」と yesterday にハイライトを当てようとしているから。ほら、感情・意図が伴っているでしょう？



英語のネイティブにとって、配置は英語文の設計図であり意味を理解するよりどころです。それだけに、配置の乱れには非常に敏感なのです。そして「わざと崩した」話し手の感情・意図を敏感に察知するのです。[PART 4](#) でしっかり学んでくださいね。

● キモチを込めて英語を話す

ここまで読んで「ああ、なるほどね。疑問文を作るのは配置転換なのですね」としか思ひなかつたとしたら、いつまでも会話は上達しません。みなさんが気づかねばならないこと、それは「疑問文は感情を込めて口から出さないといけないのだ」ということ。「知りたい・教えて」と、常に心を動かしながら使わなくてはいけないということです。

疑問文は機械的な規則でそーゆー形になっているわけではありません。心が躍動するから配置が乱れるのです。心が起点となって形が生まれている——そこに気がついでほしいのです。

「英語がいつまでたっても自分のことばになってくれない」。英語が話せない人の悩みは共通しています。それは機械的にやっているから、形や表現に心が通っていないから。本書では「心がつかめるような」解説を常に心がけました。本書は話すための英文法。しっかりとネイティブの心をつかむように学習を進めるんだよ。いいね。



● 配置がわからなければ道路標識たって読みやしないよ

瞬時に理解しなくてはならない道路標識。もちろん、英語の配置規則どおりにできていますよ。じゃなきゃ事故るから。

FOG AREA は「霧が出てくる場所」—— fog は、どんなエリアなのか area の種類を限定していますね。ROAD CLOSED は「この道は閉鎖されています」と road を closed が説明。ほら、配置規則どおり。たぬしに順番を変えて CLOSED ROAD。これでは誰も理解できません。「閉鎖道」、どんな道なんだっちゅーの。それ。



D 時表現をマスターする



話

すための文法、最後のステップ。それは「時表現」のマスターです。状況やできごとを時の流れの上に位置づける文の重要な要素、それが時表現です。

英語の基本時表現は6つ。現在・過去と、進行・完了を組み合わせた、現在形、過去形、現在進行形、過去進行形、現在完了形、過去完了形、さらに数種類の未 来形をマスターする必要があります。

今「マスターする」と言いましたが、それは「過去形は現在時より前のできごとをあらわす」「現在形は現在のできごとをあらわす」と、機械的に理解することではありません。そんな理解では、日本語訳くらいはなんとかできたとしても会話じゃとても使えないから。「マスターする」とは、その時表現のフィールドをつかみとることです。そしてネイティブのキモチを理解することが、時表現マスターへの最速の道です。

■ 時は感覚で

ネイティブは時表現を感覚でとらえています。「こんな感じのときには、この形」といったように。例えば、現在形、過去形、現在完了形を支配しているのは、遠近。つまり距離感です。現在にいる話し手から見て、過去形は「遠く離れた」、現在形は「包み込む」、現在完了形は「迫ってくる」——距離の感覚としてとらえられているのです。



ほら、もうなんとなくそれぞれの形がもつニュアンスがつかめてきたでしょう？

時表現を感覚でつかまなければならない理由の1つは、同じできごとも、どちら方によって使われる表現が異なるからです。

みなさんが1年前、オーストラリアに行ってワニ（の肉）を食べたとしましょうか。どちらの文を使いますか？

Ⓐ I ate alligator tails. (僕はワニの尻尾を食べたよ)

【過去形】

Ⓑ I've eaten alligator tails. (僕はワニの尻尾を食べたことがあるよ)

【現在完了形】



過去形

現在完了形

できことは1つ。ですが感じ方はひととおりではありません。「速い」過去のできごと感じれば、使うのは過去形。ですが、「今自分のちっている経験」とどちられば、現在完了形となるのです。話し手のもつ感覚によって、時表現は自在に変わっていく——だからこそ、時表現は「過去形は現在よりも前のできごとをあらわす」などと機械的に定義することができないのです。

Ⓒ I was reading a book in bed last night when suddenly the room starts to shake and the lights go out. I freaked out!

(ベッドで昨日の夜、本を読んでたのよ。そしたら突然部屋が揺れ始めて電気が消えたの。モーとしたわ！)

過去のできごとを話しているにもかかわらず、途中で現在形にスイッチしています。「現在形は現在のことをあらわす」のなら、こんなことは起こるはずがありません。



だけど、ネイティブにとっては朝飯前。彼らは時表現を感覚で使っているからです。昨晩のことを話しているうちに、話し手は自分がその場にいるような臨場感に包まれる——だから当然現在形にスイッチするのです。

時表現は、杓子定規に定義はできません。だけどね、感覚でとらえることができるようになれば、ネイティブの時表現が見えてきます。「速い感じだから過去形」「包まれている感じだから現在形」「迫ってくる感じだから現在完了形」——それでいいんですよ。

■ 時表現のさまざまな用法

時表現のマスターに欠かせないのは、それぞれの表現のもつ用法の学習です。現在形にも、過去形にも、現在完了形にも、進行形にも、独特の用法があります。用法の学習で最もやってはいけないこと。それは、「各々の用法を別々のものとして暗記する」ことです。それでは英語を話す力は伸びません。用法別に考えながら会話をすることなど不可能ですし、そもそも用法から逸脱した使い方も日常茶飯事だからです。用法はすべて、それぞれの時表現がもつ基本的な感覚につなげて身につけることが大切なのです。

例えば、現在完了形には「直近のできごと・経験・継続・結果」の4つの用法が知られています。これらは——もちろん——偶然現在完了形に同居したわけではありません。どれも、現在完了形の「迫ってくる」から生まれた使い方です。



現在完了形：用法の広がり

- ⓐ It **has stopped** raining. 【直近のできごと】
 (空を見上げて) 雨やんだよ)
- ⓑ I **have visited** London. 【経験】
 (ロンドンを訪れたことがある)
- ⓒ We **have been** friends for a long time. 【継続】
 (僕たち長い間ずっと友達なんだよ)
- ⓓ Can I talk to Cathy? —— She **has gone** shopping. 【結果】
 (キャシーいます? —— 買い物に行っちゃったよ (=今いるないよ))

現在完了形の、手元にグッと迫ってくる感触から、すぐ目の前で起こったできごと(ⓐ)。経験とは過去のできごとを、今の経験として手元に引きつけて考えることですよね(ⓑ)。過去のできごとが現在にいたるまでずっと続くことをあらわす(ⓒ)は、過去から今に状況が迫ってくるということですね。過去のできごとを述べ今の様子を暗示する(ⓓ)も、やはり過去を今に引きつける使い方。現在完了形のさまざまな用法は、「迫ってくる」という感覚からすべて生み出されているのです。

ところで、現在完了形の例はすべてこの4用法に分類できるわけではありません。例えば、公園をデートしているみなさんがベンチに座ろうとしたら、作業員のおじさんが大声を出しました。

- ⓔ Be carefull! I've just painted it.
 (気をつけて! ベンキ塗ったばかりだから)

さて、この文は先のどの用法なのでしょう? …どの用法でもありません。おじさんは「塗ったばかりだよ。だからまだベンキべとべとなんだ」と言っているのです。つまり「直近」と「結果」が同時に感じられているというわけ。もちろん「迫ってくる」感覚があれば、用法に分類しなくてもおじさんのキモチはわかりますよね。

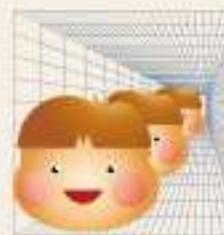
用法分類は単なる入り口。学習のための方便にすぎません。より深い実践レベルの時表現を身につけるには、用法別ではなくその後ろに流れるネイティブの感覚をマスターしなければならないのです。

【直近のできごと】

【経験】

【継続】

【結果】



時表現は、英語学習の中でも最も時間を要する、ハードルの高い学習項目です。だけれどね。つまらない定義や用法の丸暗記でなく、ネイティブの感覚をつかまえれば、それほど時間はかかりません。【PART 0】でじっくり説明しましょう。

おまけ



英文法。それほど難しくはないことがわかつてきましたね?

ただ、文法を理解するだけでは、英語はできません。そ、英語表現。単語や熟語も大切。本書では、基本単語の解説を加えてあります。問題は、その説明の仕方だったりするのですよ。

本書の目標は「話せる英語」を解説すること。そのためには単語の説明も、会話で使えるレベルの説明でなくてはなりません。そのための手法が「イメージ」を使った解説です。

「イメージ」とは、「意味」ということです。英語学習者は——辞書など——日本語訳で英語表現の意味を理解することが多いのですが、それではどうしても越えられない壁があるのです。

例えば **on** という前置詞を考えてみましょう。この前置詞には、大変さまざまな日本語訳が対応します。

① There is an apple **on** the table.

(テーブルの上にリンゴがある)

② There is a mosquito **on** the ceiling.

(蚊が天井にいるよ)

③ Matsudo is **on** the Joban line.

(松戸(市)は常磐線(路線)にある)

④ Spiders live **on** flies.

(蜘蛛(は)ハエを食べて生きている)

⑤ He has a lot of things **on** his mind.

(彼には悩みがたくさんある)

⑥ On hearing the news, he ran to tell all his family.

(ニュースを聞くとすぐに、彼は家族に知らせに走った)

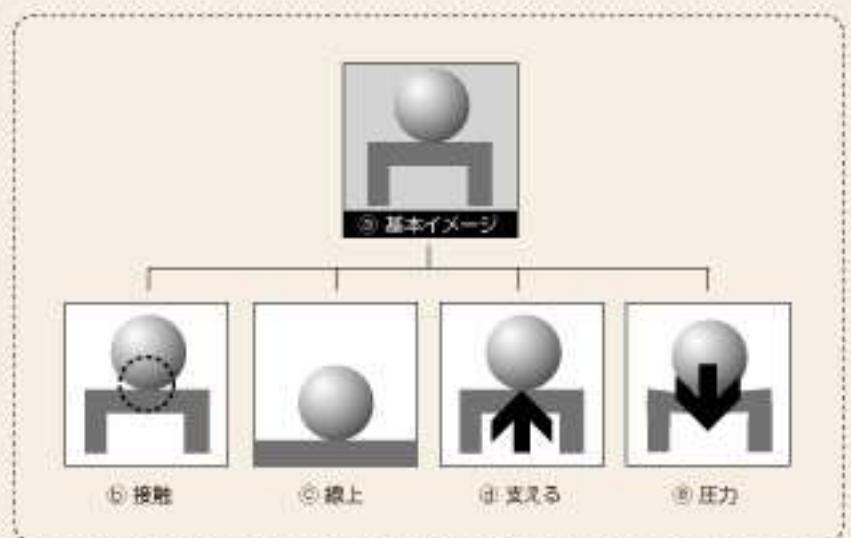
中には **on** にあたる訳語すらないものもあり、「日本語訳を覚えてても **on** は使えるようにならない」ことがすぐにわかるでしょう？ 意味を別のやり方で説明しなければならない——そこで私が提案してきたのが「イメージ」です。

ネイティブにとって、**on** の意味とは実に単純。テーブル状のモノに何かが乗っている、それが彼らにとって **on** の意味(イメージ)なのです。さて、ここからが本番。実はネイティブはこの基本となるイメージから、連想によつて **on** の使い方を広げます。

ジッと基本イメージを見てみましょうか。

ほら、テーブルと球体の接触に注目すると「接触」の使い方が生まれます。テーブルの天井に注目すると「線の上」が生まれます。下のテーブルが球体を「支え」ているように見えますし、球体が「圧力」を加えているようにも見えるでしょう？

基本イメージがいろんなふうに見えてくる——これが **on** がもつ膨大な用法の秘密です。



先程の例文、①は基本イメージ。⑥は蚊が天井に「接触」しているということ。②は常磐線(線路)が線とみなされています。④は蜘蛛の生活がハ工によって支えられているということ。同じような使い方に count on, rely on, depend on(頼る)などもあります。⑨は「圧力」。彼の精神(mind)をたくさんモノがグリグリ押ししているということ。concentrate on(～に集中する)もそう。集中力がグッと何かに向かっている感触がするから。look down on(軽蔑する)もそう。軽蔑するときには、気持ちや目線が相手をグッと圧迫するように動くから。最後の⑦は「～するとすぐ」と訳される on。「接触」の使い方ですよ。ニュースを聞くというできごとと、「知らせに走った」というできごとが「接触」、「すぐに」ということになりますね。

いかがでしょう。単純なイメージがその用法すべてに生きているのです。ネイティブのもつ単純なイメージをつかめば、膨大な意味をもつ基本単語を私たちはすぐにマスターすることができるってことですよ。

本書の表現解説は、すべてイメージによって説明しています。文法事項も大切ですが、表現解説も楽しみにしてくださいね。すぐに使えるようになるヒントがたくさんありますから。

END



「英文法の歩き方」いかがでしたか？ もうみなさん、何をどう学べばいいのか——英語学習のための「地図」を手に入れました。その地図を使って思う存分英語の秘境を探検してください。読み進めるたびに、より深く英語が理解できるはずです。

で、忘れていると困るから、もう一度言っておきます。いいかい。話せない英語なんて何の役にも立たないんだということ。相手の言い分にうなずき、ひざまずくだけの英語など無意味なんだということ。話すことができる英語力をもっていれば、リスニングたの英文解説たのはついてくるんだということ。

本書でぜひ、大学受験レベルに留まらない、話すことのできる英語をマスターしてください。みなさんのご成功をお祈りしています。

さあ、出発だつ。



●本書のコラムについて

本書には、学習のレベル・趣向に応じてさまざまなコラムがあります。次のマークを手がかりにして、読んで（または読みないで）ください。



▶ HEART

【重要度】★★★

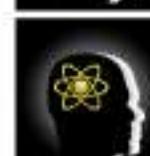
ネイティブの心の動きを詳解するコラム。すべての方にお読みいただきたいコラムです。



▶ LIGHT

【重要度】★★★

さらに詳しく使い方などを解説するコラム。やや学習が進んだ方に適したコラムです。



▶ ELECTRON

【重要度】★★★

文法現象にマニアな分析を組めたコラム。一般の方は読み必要がありません。理屈で文法を割り切りたい特殊な方々に向けて書きました。英語の実践にはほぼ役に立ちません。はは。



▶ CONVERSATION

【重要度】★★★

会話へのヒントを書いたコラム。みなさんお読みください。



▶ POSITIONS

【重要度】★★★

英語は配道のことば。文の要素の配列の仕方を詳しくまとめたのが、このコラム。しっかりとお読みくださいわ。



▶ VOCABULARY

【重要度】★★★

語彙を増強するためのコラム。大学入試で標準的に試される表現をカバーしています。日常会話の範囲から逸脱するものもありますが、よろしければどうぞ。無駄にはなりません。



▶ TYPICAL MISTAKES

【重要度】★★★

よくある間違いを示したコラム。特に大学受験生は要注意です。

基本文型① 他動型

▶他動型は、英語で特に好まれる型です。まずはここから征服しましょう。



A 他動型

- ④ My boyfriend kissed my sister!

(私のボーイフレンドが妹にキスを！)

- ⑤ Some students teased the new teacher.

(新任教員からかう学生がいた)

- ⑥ Ellie has beautiful eyes.

(エリーは美しい目をしている)

- ⑦ I know Monet.

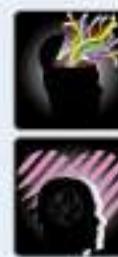
(私はモネをよく知っている) ■ Monet: 印象派を代表するフランスの画家。

My boyfriend kissed my sister!

動 目

動詞の後に目的語（名詞）を1つ従えた型。それが他動型です。基本文型は常に独自の意味（感触）と結び付いていることに注意してください。感触がつかめなければ決して上手に型を使いこなせません。

動詞の「力」が対象物（目的語）に加わる・及ぶ——それがこの型の意味。
④は「からかう」が the new teacher に、⑥は「所有」が beautiful eyes に、⑦は「知識（知っている）」が Monet に及んでいる感触です。この型はいつも、この感触をもっているのです。



● 目的語は名詞の位置・目的語のキモチ

他動型では、動詞の後に力が向かう対象として「目的語」が加わります。目的語とは動詞・前置詞が後に従える要素。主語と並んで、典型的な名詞（代名詞）の位置です。

- (1) John protected his kid sister. (ジョンは妹を守った)

動 目

- (2) John lives in Urawa. (ジョンは浦和に住んでいる)

動 目

主語と同様に、目的語には単純な名詞（代名詞）以外も使うことができます。代表的なものは -ing形と to 不定詞。

- (3) I like playing golf with my son.

- (4) I like to play golf with my son. (僕は息子とゴルフをするのが好きだ)

どちらの文も「ゴルフすること」を名詞として -ing形・to 不定詞が扱われていますね。（3）・（4）のニュアンスの違いは☞P.455を参照。

目的語にはいつも「指し示す」感触が伴っています。（1）は protect の「力」が「ここに及んでいるんだよ」と表す。（2）は「どこの中（in）か」というと、浦和だよと指す。動詞・前置詞の後ろには共通の感触が宿っているのです。

代名詞（I, you, she など）は、目的語の場所ではそれ専門の形である目的格（me, you, her など）を使います（☞P.207）。

- (5) He loves me. (彼、私のこと好きなの)

目

目的格は「指し示す」形だから、ネイティブが Me? (私?) と言うときの動作を観察してください。ほら、自分を指さしているでしょう？



● 他動型のもつ、強い「及ぶ」感触

「動詞+目的語」には常に、「力が対象に及ぶ」強い感触があります。先程とりあげた例文をもう一度見てみましょう。

- (1) I know Monet. (2) I know about Monet.

- (3) I know of Monet.

日本訳はすべて「私はモネを知っている」ですが、受ける感触は大きく違います。この中で最も深い知識をもっているのは（1）の know Monet, know about Monet も「フランスの印象派だな」「光の色暈だな」などいろいろ知っている感触はあります。know Monet と比べると知識の深度は落ちます。（3）の know of Monet にいたっては、「あーきーしたことあるなー。建築やってたんだっけ？」程度のこと。比較にならないません。知識が直接 Monet をむかう感触、それが know Monet なのです。他動型のもつ

強い意識、しっかりと身につけてくださいね。



●「スポーツをする」のいろいろ

「野球をする」「柔道をする」「スキーをする」。同じ「スポーツをする」という表現ですが、表現の仕方は異なります。

- (1) I play baseball / tennis / rugby / soccer. [play + スポーツ名]
(例は野球/テニス/ラグビー/サッカー)をする
- (2) I do/practice judo / yoga / karate. [do/practice + スポーツ名]
(例は柔道/ヨガ/空手)をする
- (3) I ski / skate / fence. [動詞であらわす]
(例はスキー/スケート/フェンシング)をする



さて、なぜ野球などのスポーツに限って他動型を使うのでしょうか？それは「力が及ぶ」を感じるから。野球・テニス・ラグビー・サッカー、すべてボールを打ったり蹴ったりします。インパクトの連想からそれに見合った他動型が用いられるというわけ。スキーには、何かを打ったり叩いたりのイメージはありませんよね。だから他動型を使わず、単に *ski* と動詞になります。また、(2)のようにインパクトもない、動詞になるほどでもないスポーツは「do/practice + スポーツ名」となります。

他動型の「力が及ぶ」。実に一般的な語感なのですよ。



●英語を話せるようになるためには

英語学習の成否は、この、数十ページで終わってしまう「文型」にかかっています。型を身につける最もいい方法は「音読」。「力が及ぶ」を意識しながら声に出して読みこと、「the new teacher」にインパクトを感じながら「teased the new teacher」、「Monet」に知識が及ぶことを意識しながら「know Monet」。すべての型が体から自然に出てくるまでしつこく読めば、英語はすぐに話せるようになります。



SECTION 4

基本文型② 自動型

▶次は「自動型」。これが一番簡単。



A 自動型

- ⓐ My brother **swims** really fast.

(兄は泳ぐのがすごく速い)

- ⓑ My baseball team didn't **play** well last night.

(僕のひいきしている野球チーム、昨日はあまりできがよくなかった)

My brother **swims** really fast.



動詞の後に目的語がないこの型には、力が及ぶ対象がありません。つまり、「単なる動作」を示します。

例文の *really fast*, *well last night* は、目的語ではなく修飾語句。いくら重なっても文型には関わりません。ご注意ください。

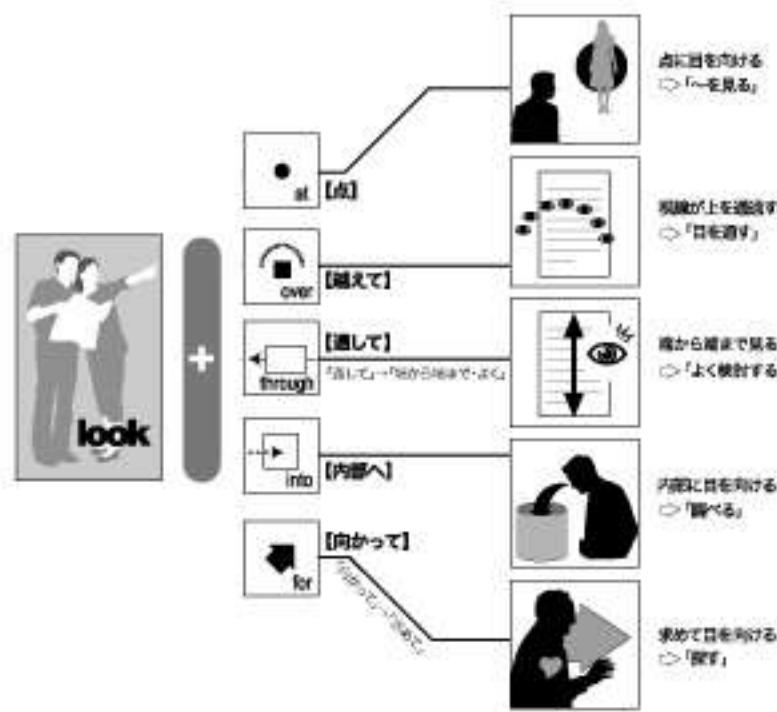
B 前置詞とのコンビネーション

- ⓐ I **looked at** the girl. (その女の子に目を向けた)

- ⓑ Are you **going to** the school festival? (学園祭行くの？)

自動型ではしばしば、動詞による動作が「何に対して・どのようになされるのか」を示す前置詞がコンビネーションで使われます。ⓐの *look* は「目を向ける」という単なる動作です。それが何に対して行われたかを *at* が示します。

しているのです。こうしたコンビネーションはしばしば「熟語」として紹介されますが、まとめて暗記する必要はありません。動詞と前置詞、それぞれのイメージ（単語のもつ中核的な意味）を正しくつかんでいれば、ほとんどの場合正確に予想することができます。



＊動詞と前置詞のコンビネーションに関して詳しく述べては「熟語」(☞P.372) を参照。

他動型と自動型

次の文を見てみましょう。(1)は他動型、(2)は前置詞が使われた自動型です。

(1) He **shot** the bird. (2) He **shot at** the bird.

(1)は目的語に力が及ぶ他動型。彼は鳥を撃った——鳥に命中するところまでを意味に含んでいます。一方、(2)は単なる行為。目標を示す **at** が加わり「鳥をめがけて撃った」命中までの意味に含んではいないのです。他動型と自動型のもつ意識の違いがクッキリと浮かび上がりますね。



SECTION 5

基本文型③ 説明型

▶「説明型」の典型例はbe動詞文。単純な型ですが意識の運び方に注意しましょう。それが「話せる英語」につながります。



A 説明型 (be動詞)

(a) My cousin is a **delinquent kid**.

(僕のいとこは非行少年です)

(b) My cousin is **very moody**.

(僕のいとこはとてもお天気屋さん)

(c) My cousin is **at the bowling alley**.

(僕のいとこはボーリング場にいるよ)

My cousin is a delinquent kid.

動

説明語句

説明型は「主語を説明する」型です。最も頻度が高いのはbe動詞文。be動詞の後に説明語句を置き、My cousin = a delinquent kid と説明します(a)。

この型は説明ルール（説明は後ろから）の典型的な形。主語の後に説明語句を配置する意識で作ります。be動詞に意味はありません。主語と説明語句をつなげる、文の形を整えるための単なる「つなぎ」として働いています。さあ、何度も上の文を音読してみましょう。is は「オートで自然についてくる」感じ。意識を置かないことに注意しましょう。



● be動詞：意味のない「つなぎ」

be動詞に意味はない、単なる「つなぎ」。それがネイティブの意識です。そのため、be動詞にはほかの動詞にない重要ないくつかの特徴があります。

◆ be動詞には短縮形がある

be動詞は短縮形がある唯一の動詞です。短縮形は「時々短縮して使う」わけではありません。会話では短縮形の方が圧倒的に頻度が高いです。意味がないから平気で短縮されるというわけ。ちなみに be動詞も過去形となると、短縮はされません。

I was happy. → ✗ I's happy.

「過去のことを示す」意味が生まれるから。意味のありようが短縮されるかどうかを決めているのです。

◆ be動詞は強く発音されない

be動詞は弱く・すばやく発音されるのがふつうです。文全体の意味を強める、特殊効果をもたらす(例P.536)以外で、be動詞をほかの単語と同じように強く発音すると不自然に響きます。

◆ 省略されることがある

感情が強烈したとき、手短に切れよく発言したいときなど、be動詞は省略されることしばしばです。

■ be動詞の短縮	
I am → I'm That is → That's He is → He's We are → We're	
■ be動詞の発音	小さく発音
○ John happy. ✗ John is happy.	

■ be動詞の省略
Is everything OK? 全然問題ない？ You are a liar! この嘘つき！

意識を重かない単なる「つなぎ」——それがネイティブのbe動詞なのです。



● be動詞の「いる・ある・なる」

be動詞には、「いる・ある・なる」と訳すとピッタリくる場合が多くあります。だからと言って、「be動詞には、存在や変化をあらわす使い方がある」と考える必要はありません。

(1) John **is** in his bedroom. (ジョンはベッドルームの中にいます)

(2) She **will be** a good teacher. (彼女はいい先生になるでしょう)

(1)は単に「ジョン=ベッドルームの中」ということ。説明語句が場所をあらわしているので「いる」と訳すだけのこと。(2)は「彼女=いい先生」に将来なるだろう、ということ。やはり become(→になる)のような強い意味合いはもっていないのです。be動詞は単なる「つなぎ」。それだけでいいのですよ。

*昔の使い方

God **is**. (神は存在する) のように、以前、be動詞には「存在」を積極的にあらわす使い方があったのは事実です。ですがこうした使い方は決まり文句に限られ、21世紀現代英語では自由に作り出すことはできません。✗ John **was**. (ジョンがいた)

B 説明語句の自由

be動詞の後ろに置く説明語句には、意味さえ通ればあらゆる要素を自由に使うことができます。気楽に並べてくれればいいですよ。

- | | |
|---|---------|
| ① angry at me. (僕に怒っていた) | 【形容詞句】 |
| ② a chef. (シェフだった) | 【名詞句】 |
| ③ on duty. (勤務中だった) | 【前置詞句】 |
| ④ fishing. (魚釣りをしていた) | 【-ing形】 |
| ⑤ injured playing soccer. (サッカーをやっていてケガした) | 【過去分詞形】 |
| ⑥ to regret his foolish behavior. (to不定詞)
(おろかな行為を後悔することになるのだった) | |

③と⑤はそれぞれ進行形(例P.447)・受動形(例P.477)とよばれます。-ing形と過去分詞形を説明語句として使った単なる説明型の文です。説明語句には、節(文)も使うことができます。

⑤ The trouble is **that we don't have enough money.**
(問題は彼らが十分お金をもっていないことだよ)

⑥ The problem is **what we should do if the plan fails.**

(問題はもし計画が失敗したらどうするべきかだ)

⑦ The question is **whether we cancel our trip or not.**

(問題は旅行をキャンセルするかどうかだ)

説明語句には何も制限はありません。なんでも可能——この自由をぜひ手に入れてください。



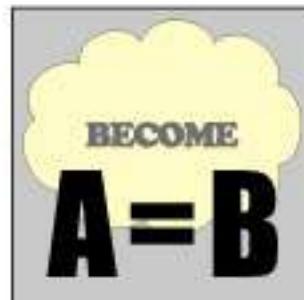
● 自由度の理由

英語は、表現の文中での働きが配置によって決まる、配置のことばです。**be**動詞の後の位置は「説明」の位置。どういった要素がこの位置にされるのかという繋りは、「説明」として理解することができるだけ。その結果、ほぼすべての要素を使うことができるというわけなのです。

C 説明型（一般動詞）

⑧ Many workers **have become** jobless.

(たくさんの方たちが就職に失敗した)



説明型は **be**動詞以外の動詞にも使うことができます。この文では動詞の後に説明語句 **jobless** (無職の)。**be**動詞文と同じように、基本的な意味は「Many workers = jobless」。ただし、**be**動詞と異なり実質的な意味をもつ動詞（一般動詞）の場合、その意味が「=」にオーバーラップします。「Many workers = jobless になった (have become)」という意味になるわけです。説明型をとることができる動詞は **become** 以外にも数多くあります。

〈変化をあらわす動詞〉



⑨ All the food **went** rotten.

(食べ物はみんな腐っちゃった)

⑩ I'm **getting** hungry, Mom. When's dinner?

(お腹空いてきたよ、あさん、晩ご飯いつ?)

⑪ The autumn leaves are **turning** red and gold.

(秋になり木の葉が赤や金になってきた)

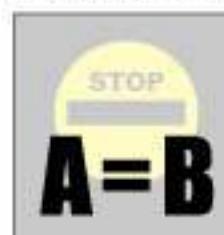
※どちらも「一になる」と、変化をあらわす動詞です。

⑫ I **stop** people from running (止める) とオーバーラップしています。**go, come** は「ある状態に行く (くる)」から「変化」につながっています (☞P.111)。

⑬ **get** は「動達」であらわすことから「変化」。大ヒット曲です。

⑭ **turn** はうぐいすのようにガラッと「変化」。ほかにも **Everyone grows old, (誰もが歳をとる)** などの例もあります。

〈ある状態に留まることをあらわす動詞〉



⑮ The audience **remained** silent during the national anthem.

(国歌斉唱のあいだ会場は静まりかえっていた)

⑯ It's important to **stay** calm in an earthquake.

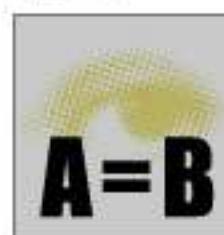
(地震の場合冷静であることが大切だ)

⑰ I exercise every morning to **keep** fit.

(健康的な体を保つために毎朝運動してるよ)

※⑮: 「静か=静か(なままだ)」と、オーバーラップ。

〈知覚印象をあらわす動詞〉



⑱ Doesn't she **look** gorgeous in that dress?

(彼女のドレス見てるときれいじゃない?)

⑲ My hair **feels** much softer with this new conditioner.

(この新しいヘアコンディショナーつけてると)

はるかに髪がやわらかく感じるよ)

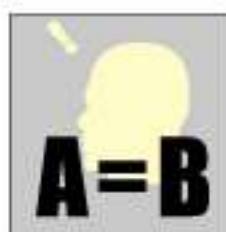
⑳ The new video game **sounds** amazing.

(新しいテレビゲーム、すごそうだね)

※⑯: 「彼女=きれい(に見える)」とオーバーラップ。**feel** (感じる), **sound** (聞こえる),

smell (においがする), など、知覚をあらわす動詞は頻繁にこの形で使います。

〈判断をあらわす動詞〉



- Ⓐ She **seems** / **appears** stressed out.
(彼女はストレスでやっているようだ)
- Ⓑ His plan **proved** successful.
(彼の計画は成功だった【成功ということが実現した】)
- Ⓒ Her prediction **turned out** right.
(彼女の予言が正しいことがわからかになった)

Ⓐ 「彼女ーストレスでやっている（ように見える）」とオーバーラップ。
Ⓑ prove（証明する・わかる）も説明型に出てくるボビュラーな動詞。
Ⓒ turn out（あさうかになる）が「彼女の予言=正しい」にオーバーラップしています。

細かく分類しておきましたが、こんな分類覚えてなくても、もちろん大丈夫。これらの動詞は、「A = B ()」の()の部分に入る動詞たち。「A = B (になる・のままだ・に見える・に思える)」などがピッタリくるのは当然ですね。

さあ、オーバーラップの意識で何度も例文を音読していきましょう。頭で理解するだけでは英語は話せません。ネイティブと同じ意識でこの形が口について出てくるまで練習、ですよ！

SECTION C

基本文型④ 授与型

▶最後の基本文型「授与型」です。「動詞+日+日」——最も長い基本文型。徹底した口慣れしが必要ですよ。



主 + 認 + 日 + 日
授与型

A 授与型

- Ⓐ I gave the guy my cell phone number.
(その人に携帯番号を教えてあげた)
- Ⓑ My parents bought me an iPad.
(両親は僕にiPadを買ってくれた)
- Ⓒ We wrote our teacher thank-you poems.
(先生にありがとうの詩を書いてあげた)
- Ⓓ I wonder who sent me this Valentine card.
(誰が僕にこのバレンタインカードを送ってくれたのかな)

I gave the guy my cell phone number.

動詞の後に目的語2つを従えた授与型は、「AにBを授与する（あげる・くれる）」をあらわす型です。目的語の順序は変えることができません。いつも「AにBを」の順番となります。

上の例文では、すべて「あげる・くれる」の意味合いになっていることに注意すること。授与型で使われるとどんな動詞でも手渡しの意味合いになります。配置のことは英語では、文型と意味はガッチリと結び付いているのです。

- Ⓔ Mika tells me all the school gossip.
(ミカは私に学校の噂を全部教えてくれるよ)
- Ⓕ My Grandma taught me Korean
(おばあちゃんが私に韓国語を教えてくれた)

- ⑤ My Mom used to **read me bedtime stories** when I was a kid.

(母は僕が子どもの頃、おやすみの物語を読んでくれたんだよ)

この型で手渡しされるのは具体的なモノだけではありません。「教えてくれる」「読んでくれる」など、抽象的な手渡しにも使うことができますよ。

- ⑥ **My old scooter costs me a lot of time and money.**

(僕の古いスクーター、すごく時間とお金がかかるんだよ)

- ⑦ **It took me 3 hours to get home from school today, owing to the typhoon.**

(台風で学校から帰るのに3時間もかかっちゃった)

- ⑧ **The hotel charged us \$50 for losing our room key!**

(カギなくしたらホテルが僕たちに50ドルも請求してきた！)



授与型は「あげる・くれる」だけではありません。そこに cost, take, charge (かかる、取る、請求する)などの単語を使えば、奪う意味関係もあらわすことができます。誰から何かを奪う関係——「マイナスの授与」というわけです。

B 授与をあらわす、もう1つの形

「授与」をあらわすのは授与型の文だけではありません。前置詞を使ってもあらわすことができます。

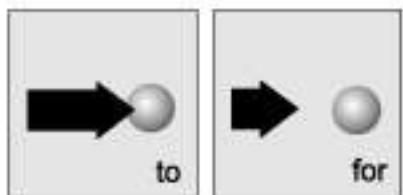
- ⑨ **She gave this love letter to me.**

[**She gave me this love letter.**]

(彼女はこのラブレター、僕にくれたんだよ)

この前置詞を使った形には、to を使う場合と for を使う場合があります。**to** は到達点、**for** は「～のために」と受益者をあらわす前置詞 (to = P.402, for

= P.389)。give (あげる), tell (告げる), send (送る) など到達点が意識される動詞では、「この人にあげた・言った・送ったんだよ」と to が使われ、make (作る), find (見つける), buy (買う) など、受益者が強く意識される動詞では、「～のために作った・見つけた・買ったんだよ」と for が使われます。



- ⑩ **I'll send the party photos to you.**

(パーティーの写真、君に送ってあげるよ)

- ⑪ **She wrote this love letter for me.**

(彼女はね、このラブレター僕のために書いてくれたんだよ)

- ⑫ **She baked some muffins for her volleyball club.**

(彼女はバレー部のみんなのために、マフィンを焼いてくれた)

それでは問題です。次のペア、意味の違いがわかりますか？

- ⑬ **She brought this chair to me.** (彼女は僕のところにイスを持ってきた)

- ⑭ **She brought this chair for me.** (彼女は僕のためにイスを持ってきた)

⑬は「僕のところに」、単なる到達点。⑭は「僕のために」、僕を思いやつて、ということですよ。簡単ですね。



● この形は代替形

前置詞を使って「授与」をあらわすこの形、実はそれほど重要度が高くはありません。授与をあらわす場合には授与型が圧倒的にノーマルな形だから、この形が使われる典型的な状況は、受け手の強調です。

- ⑮ **Don't you dare read that! She wrote that love letter for me!**

(それ、読むのやめよ！ そのラブレター、僕にくれたんだから！)

この文では「僕に(me)」が目立つ文末に置かれ、前置詞 for により誰のためにかが明示されていますよね？ これにより、受け手に強い光が当たる形となっているのです。

授与型とこの形は、使われる状況もニュアンスも異なります。「どちらでも同じ」と考えず、授与型ではあらわすことのできない強調を与える「代替形」だと考えてくださいね。

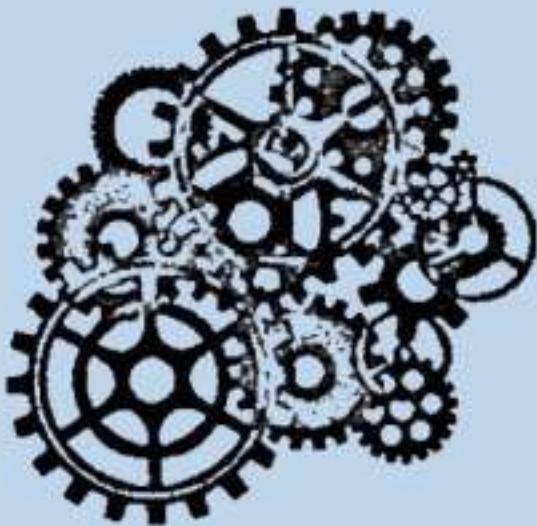


CHAPTER

2

名詞

NOUNS



この章ではモノをあらわす表現——名詞を学びます。英語はモノに敏感なことは、日本語にはない、さまざまな「モノの見方」に慣れてください。

■名詞とは

名詞とはモノ（人・もの・コト）をあらわす表現。主語や目的語には名詞が用いられます。文の骨格を形作る重要な要素——それが名詞なのです。

名詞には pen や water など、一般的な事物をあらわす名詞のほか、Tom, Japan, the United States of America などの個別のものについての名前（固有名詞）や, I, you などの代名詞があります。

■モノ表現に繊細な英語

英語と日本語には大きく異なるポイントがいくつもありますが、その1つが名詞の質。英語は大変繊細に、詳しくモノを説明することばなのです。この独特的のクセが、英語における名詞の使い方を複雑なものにしています。次は英語ネイティブにとって、かなり不自然な文。

✗ I have pen. (僕はペンをもっている)

ノンネイティブの英語としてはこれでも悪くはありません。ブロークンな「伝わればいいや」の英語ならこれで十分。「ペンをもっているんだな」とことはボンヤリ伝わりますから。ですが、ネイティブの高い英語力をを目指すみなさんにはその先に進んでもらいましょう。

実はこの文は、ネイティブにはどうにももの定めなく感じられる文。「もっとしっかりクリッキリ pen を説明してくれよ」と言いたくなる文なのです。日本語では「僕、ペンもっているよ」は完全に自然な文ですが、モノ表現に繊細な英語では、それでは不十分なのです。

■モノを見る「目」

英語ネイティブはモノを3つの観点から眺めます。

- ①それは数えられる（可算）のか数えられない（不可算）のか。
 - ②可算だとすれば単数なのか複数なのか。
 - ③どういった文脈上の意味（特定・不特定など）をもたせたいのか。
- この3つの観点から、適切な形を使う、それがネイティブの名詞なのです。



①可算・不可算

可算・不可算は文字どおり、数えられるか・数えられないかの区別です。より正確に言えば、具体的で決まった形があるかどうかということ。



可算の例は、すべて決まった形がありますね。ところが不可算はすべて形がなく、その結果数えられなくなっています（チーズはどんな形をしていても「チーズ」ですよね）。ネイティブは表現したいモノの可算・不可算に応じて——例えば——修飾する単語を変えます。日本語では「たくさん」です

が、英語では many (数が多い) と much (量が多い) を使い分けます。もちろん many は可算、much は不可算の場合に使います。

- ④ You're lucky you have so **many** [✗ **much**] **friends**.

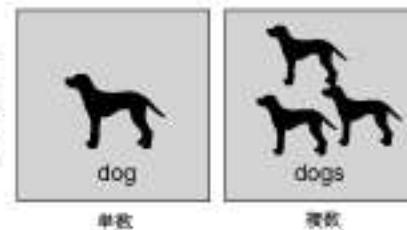
(君はたくさん友達がいてラッキーだね)

- ⑤ We never get **much** [✗ **many**] **rain** here.

(ここでは決してたくさん雨は降らない)

② 単数・複数

単数・複数は、「可算」の場合に行われる判断。不可算の場合、単数・複数の区別はありません。数えられないのだから当然ですよね。



③ 詳細な限定を加える限定詞

ネイティブは、可算・不可算、単数・複数だけでなく、さらに詳細にモノを説明します。「この文でどういったモノを自分は意味しているのか」の詳細な指定。それが名詞の前に加えられる a や the, many, this などの「限定詞」です。

文法解説

限定詞

「限定詞」とは接続する名詞の文脈・場面上の意味、数量などを限定することばです。a, the などの冠詞類、one, many などの数量表現、this, that などの指示語を含みます。

- ⑥ I love **dogs**.

(僕は犬が好きです)

- ⑦ I love **the dog** next door.

(僕は隣の大が好きです)

⑧ の **dogs** は無限定。具体的な犬は何も想起されません。犬一般。単に「犬好き」だということです。ところが限定詞 the が加えられた⑨の **the dog** は、シロ



やボチといった特定の犬。話し手にも聞き手にもわかる具体的な「犬」を意味しています。

- ⑩ Water is a vital resource.

(水は貴重な資源です)

- ⑪ Could I have **some water** to take these pills with?

(この薬飲むのに水をちょっといただけますか?)

⑫ は無限定——水一般。カルビスやコーラや油じゃなくて「水」。しかし⑩のように限定詞 some を加えると「水をいくらか」——途端にある分量をもった具体的な「水」が想起されます。限定詞は、そのままでは漠然とした意味しかもたない dog や water を、具体的な「犬」「水」に限定する働きをもっているのです。



限定詞は、モノを繊細に表現する習慣をもたない日本語ネイティブの私たちにはやや厄介なしきもの。だけどね。一度慣れるとその便利さが身にしみてわかります。限定詞を手放せない——そこまで仕上げていきましょう。

there文は「初めての事物を話題にもち込む」。もう大丈夫ですね？

それでは、既出の（すでに話題にのぼっている・お互い知っている）ものについて「～がいる・ある」と述べるにはどうしたらよいのでしょうか。もちろん例文のように、ただの be動詞文を使っておけばいいのです。

Tom, your son, he, あるいは the boy などといった表現は、ふつう there文に使われません。それは意識が矛盾するから。これらはすべて、すでにお互いがよく知っているものを指す表現。there文を使って初めてもち込む必要がないのです。ただの be動詞文と there文。英語では2つあります。いる・あるが使い分けられているのですよ。

因有名詞などが there文で使われるとき

ULTRA ADVANCED

因有名詞など既出の表現は there文にはふつう出てきませんが、「there文に因有名詞は出てこない」などと勝手に規則をあみ出してはなりません。thereの引っぱり込む感覚とマッチする状況なら因有名詞だってOK。

A: I can't think of anyone to take Anna's place, can you?

（アンナの代わりができる人。思いつかないんだけど。何はどう？）

B: Ah! There's Heather!

（ああ！ ヘザーがいるよ！）



考え方でいる A に、B は「ヘザーがいるよ！」と思いつかなかった人物を話題に引っぱり込んでいます。だから there は OK。ことははね、生きているんですよ。

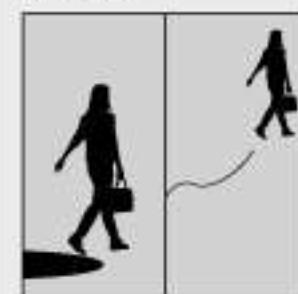


基本動詞

動詞の中には、日本訳字を見るだけで体なかなか使いこなせないものがいくつあります。その代表が「基本動詞」——会話に頻出し、頻度高い用法をもつ動詞です。ここでは、そのいくつかをとり上げイメージを使ってマスターしていただきましょう。基本イメージが日本訳字と同じ場合でも、安心しないでください。船と解説を見て、本当のニュアンスをしっかりつかむこと。いいね？

GO

行く、など



英語表現【立ち去る・進行する】

▶ go のイメージは、「ある場所から立ち去って進んでいく動き」です。多言語用法をもちます。すべてこのイメージからの連想です。

英語イメージ

◎【さざまな「立ち去る」】

(1) He went to the museum. (彼は博物館に行った)

(2) Poor Granny has gone.

（かわいそうにはばあちゃん死んじゃった）

(3) You are simply not up to the job. You have to go. (君にはこの仕事無理だよ。やめて欲しい)
▶ 「立ち去る」からの隠喩的表現で「死ぬ」「辞める」などさまざまな意味が生まれます。

◎【通用する】

(1) As far as dress code is concerned, anything goes. (ドレスコードに関する限り、なんでも大丈夫ですよ)
▶ 「進んでいく」から「通用する」。

◎【誤化する】

(1) The milk has gone sour. (ミルクが酸っちゃった)
▶ 「誤化」は「ある状態に進んでいく」という連想。

▶ go を使ったフレーズ

(1) have [has] gone (行ってしまってもうここにないやう)

▶ Your dad has gone to the bank.

（父は銀行に出ていていますよ）

▶ go は「立ち去る」。そして現在完了は「今に集点がある形。立ってますよ。だからこのコンピューションには「もういないよ」というき

みが生まれます。(☞P.572)

② go (and) 駆調 (行ってーする)

問 I don't know where the keys are.

— Well, go and find them! Go find them! (カギがどこにあるかわからぬよ。— ま、見つけてさあさいよ)

③ go + -ing (ーしに行く)

問 Let's go swimming/skiing.
(泳ぎに／スキーに行くよ)

④ For here or to go?

▶ ハンバーガーなどを買おうと尋ねられます。もちろん「店内でお食べになりますか？」それとも「おもろりですか？」という意味。goの「立ち去る」がイキイキしていますね。

COME

来る、など



【基礎イメージ】 [到来する]

▶ come のイメージは、何かが向こうから「やってくる」。

【基礎イメージ】

① 【さまざま「やってくる】

① Where do you come from? (どちらのご出身ですか?)

② A watch like that doesn't come cheap. (ああいった時計は安くないよ)

③ Mmm... nothing exciting comes to mind. (んーー何も面白そうなことが思い浮かばない)

▶ ②は時計がやってくる、つまり「手に入る」ということ。come するものは人だけではないんですよ。

⑤ もうすぐくる・次の (coming)

① the coming year (次の年)

② the coming trend (次の流行)

⑥ 【変化する】

① May all your dreams come true.

(あなたの夢が全部かないますように)

▶ 「ある状態にくる」からの連想。go は悪い come はよい方向への変化に使われる強い項目があります。Things sometimes go bad but they usually come good again. (そのことは悪くなることもあるけど、またよくなってくるものだよ)。自分の身のまわりを未來の、あるいは理想的な場所ととらえる。そこから離れるのは悪い動き——人間にはそうした認識の傾向があるってことですよ。He is completely gone. (カレ、完全にイッカラッてるよ)。ほら日本語と英語、同じでしょう？



▶ come を使ったフレーズ

① come to 駆調 (ーするようになる)

問 I came to really like spicy food.
(僕、辛いものがほんとに好きになっちゃったんだよ)

▶ 変化的 come です。to 不定詞は単に「→」と理解しましょう。「→以下の状態になった」ということ。

② How come...? (どうしてー?)

③ How come I wasn't invited?

(どうして僕は招待されなかつたんだろう？)

問 How come Helen didn't make it to the party? (なんでヘレンはパーティーにこなかったの？)

▶ Why ...? のくだけた表現です。「どのように」という言葉を経て (how) 起こったのか」ということ。

◎ go にするか come にするか

会話で特に間違いが集中するのが go と come の選択です。

Husband: We're going to be late!
(夫: [玄関で待ちながら] もう遅れちゃうよ！)

Wife: OK, OK, I'm coming!
(妻: はいはい、今行くわよ！)

なぜ「今行くわよ」は I'm coming! となるのでしょうか。

日本語の「くる」「行く」がいつも話し手のいる場所を中心を使われるのに対して、英語の come と go は話題で注目されている場所を中心に選ばれるからです。この場合、注目されているのは夫の場所。そこに近づく動きから coming となるのです。I'm going! なら旦那さんびっくり。go は自分がから離れる動き。「これから一緒に出かけるのにどこに行っちゃうんだよ」となってしまうんですよ。



RUN

走る・經營する、など



【基礎イメージ】 [走る]

▶ イメージは「走る」。実現ですが日本語の「走る」同様、人がランニングする以外にも頻度高く使われます。

【基礎イメージ】

① 【さまざま「走る】

① There's a free shuttle bus that runs between the airport terminals. (空港ターミナル間では無料のシャトルバスが運行しています)

② That movie made shivers run down my spine. (その映画、両筋がゾクゾクした)

▶ 例は日本語でも「震えが走った」などと表現しますね。shiver(s) は「震え」。

③ 【線状のもの】

① I took the small road that runs parallel to the

expressway.

(高速と平行して走っている安い道を行った)

② Who left the tap running?

(誰が蛇口を出しっぱなしにしたんだい？)



▶ 「蛇路が走っている」――

日本語でも使う意味の広がり。

④ 【変化する】

① The well has run dry. (井戸が枯れた)

▶ ある状態に至ることからの連鎖です。

▶ run を使ったフレーズ

① run + 目 (危動型) (止ませる→絶する・遮る・動かすなど)

問 He gave me tips on how to run a meeting. (彼にミーティングを仕切るコツを教わった)

BRING

もってくる、など



【基礎イメージ】 [COME +モノ]

▶ come の動きが基本にあります。こちら側にやってくる。その方向性が大切に。主語は人とほほりませんよ。

① I'll bring my guitar. (ギターもってくるよ)

② The Internet has brought many changes to our everyday lives. (インターネットは私たちの日常生活に多くの変革をもたらした)



さあ、最後の例です。もうなぜ前置詞が使い分けられているかわかりますね。感じ方の違いです。①は「フェアウェー（という範囲の中）に落ちた」が意識されているから *in*。②は単に「フェアウェーにサル」。ほら何も囮まれてる感じがしない。だから「上に乗っている」 *on* となるんですよ。

前置詞の選択は「感じ方」がすべて。約子定規に考えず、妙な規則にとらわれず、ネイティブの感じ方——イメージ——をさまざまな例文を通して身につけることが大切なのです。章末に主要前置詞のイメージを詳しく解説しておきました。ぜひお読みくださいね。



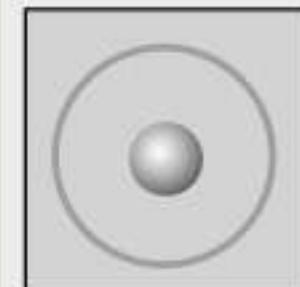
基本前置詞

前置詞は日本語では学べない単語の筆頭です。簡単な位置関係から、複数の日本語に対応する意味が生まれるからです。

ここでは前置詞の基本イメージとそこから派生する、代表的な用法を解説しました。しっかりと身につけていきましょう。

ABOUT

～について・約・およそ



スコアカード【まわり】

▶ *about* のイメージは「まわり」。*around* とは同じイメージです。

再生イメージ

◎ [約・およそ]



- (1) I weigh **about** 58 kilos.
(重いだいたい58キロ)
- (2) **Midnight?** Gosh, it's **about** time we went home. (夜中の12時? げ。そろそろ帰る時間だ)
- ▶ 「まわり」から「近い」は自然な連想ですね。

◎ [～について]



- (1) He gave a talk **about** cats.
(彼はネコについてトークをした)
- ▶ 「ネコについて（いろんなことを）話した」ということ。ネコにまつむるさまざまな内容を意味しています。（まわり）
- *about* が使われるるのは当然ですね。

◎ ざっくばらんな *about cats* とカタい *on cats*



「～について」と訳されるのは *about* だけではありません。*on* も同じように訳されることがあります。

(1) He gave a talk **on** cats.

ただしこの場合「専門的な話をした」といふニュアンス。*on* は「接触」の前置詞——「ネコそのものについて」という感触を連ねながら、ざっくばらんな（アバウトな）*about* に対して、

カタク物理的な書きをもつ on。日本語で「～について」だけでは前置詞は学べません。

▶ aboutを使ったフレーズ

(1) be about to (～しそう)

- Quick! The train is about to leave.
(早く！電車が来ちゃうよ)
- It is 'here' (ここだよ)とお示し前進の leave (去る)をお示しして「こここの近く（まわり）」ということ。

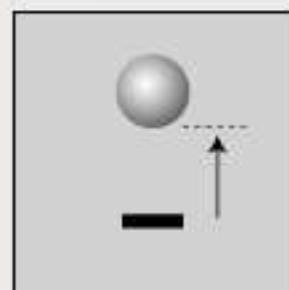
(2) beat about the bush (遠回しに言う)

- Don't beat about the bush.
(遠回しに言うな)

- bush (木) のまわりを聞くことから、カシン木どころにいたっていないうこと。

ABOVE

～の上



参考イメージ [高さが上]

- above は「高さが上」ということ。

参考イメージ

(1) さまざまなもの

- There's lots of banging coming from the apartment above.
(アパートの上の部屋から、ドンドンという音がたくさん聞こえてくるんだよ)
- Just one drink is enough to be above the legal limit.
(お酒一杯だけでも法律の制限を超えてしまいます)
- above は物理的な「高さ」だけでなく、「高さ」が想い起こされるさまざまのケース——例

えど地位・年齢・重要度などなど——にも使えます。

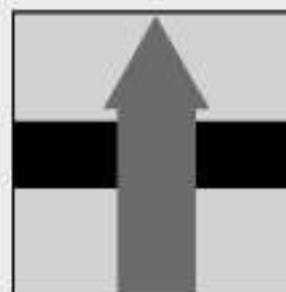
▶ aboveを使ったフレーズ

(1) above all (とりわけ・何よりも)

- Above all, relax and enjoy yourselves.
(何よりも大切なのは、リラックスして楽しむこと)
- 「すべての中で（重要な）最も高いのは」ということ。

ACROSS

横切って



参考イメージ [十字]

- across は「横切る」。十字 (cross) を作るように、ということ。

参考イメージ

(1) さまざまなもの

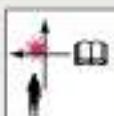
- They swam across the river.
(彼らは川を泳いで渡った)
- There's a convenience store just across the street.
(通りを渡ってすぐの所にコンビニがある)
- 前置詞はほとんどの場合、動きと位置のどちらもあらわすことができます。(1)は十字を作るような動き。(2)は通りを渡ってすぐの所という、十字を作る位置関係をあらわしています。
- (～中)
- I rode my motorbike across South America.
(南アメリカ中をバイクで旅行した)
- ある物体を「横切る」。ハジからハジまでとい

うことになりますね。

▶ acrossを使ったフレーズ

(1) come across (偶然見つける)

- I came across my graduation album this morning.
(今朝卒業アルバムを偶然見つけた)



(2) run across (バッタリ出合う)

- I ran across Terry in town today.
(今日町でテリーとバッタリ会った)
- 「バッタリ」も同じ。少し会わせたままでなく進行方向がクロス。

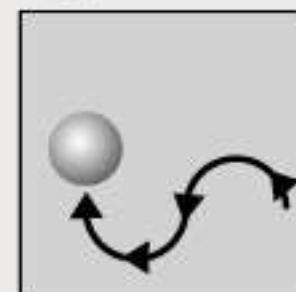
(3) across the board (全面的に)

- The economic crisis has hit businesses across the board.
(経済危機はあらゆるビジネスに打撃を与えた)
- board (板) は、比較的広範囲のあるすべての人 (モノ) を抱いています。そのハジからハジまで。



AFTER

～の後



参考イメージ [ついていく]

- after は「後ろからついていく」。「～の後」の順序関係もそこから生まれます。

参考イメージ

(1) さまざまなもの

- The police are after him.
(警察が彼を追いかけています)

(2) Are you after anything in particular?

(特に何かお探しですか？)

日本語ではあまりですが「ついていく」ということですね。

④ [順序]



- How about going to karaoke after class?
(授業の後カラオケどう？)

- Shibuya comes after Harajuku, right?
(渋谷は原宿の後、よね？)

⑤ [横断]



- This is a painting after Picasso.
(この絵はピカソの模倣です)
- 「ついていく」から「やり方に従う（模倣）」は自然なつながり。

▶ afterを使ったフレーズ

(1) look after (世話をする)

- Can you look after my son while I'm away?
(私が出かけているあいだ、息子の世話をしてくれる？)

- 誰かの世話をすると、私たち体免疫が及ぼないように「後ろから」目配りをしますよね。だから look after. もちろん人の世話にも使えます。

(2) name ... after ~ (～を～にちなんで名づける)

- We named our daughter after her grandmother.
(母たち、彼女をあばちゃんにちなんで名づけたんだ)
- 名前があばあちゃんに「ついていく」。

(3) take after (似ている)

- Do you take after your Mom or your Dad?
(君は母娘？それとも父娘？)

- 面だけではなく性格・行動にも使えます。「後ろをついていて、特徴を take する（とる）」というイメージ。

(4) ask after, inquire after (尋ねる)

- Rio asked after you at school today.
I think she fancies you!

- 昨日工事が学校で君のこと尋ねていたよ。
彼女、君に気があるんじゃないかな！

- 「君、どんな娘子？」と尋ねていたってこと。
情報収集追っかけている (after) 感触があります。inquire after は、より力強い言い回し。

□ **to** を使った表現(1) **To tell the truth, he is a real jerk.**

(本当のこと言えば、アイツはすごくやねんなんだよ)

to 不定詞は話し手の発言態度と大変相性のいい形です。ほかにも、**to be honest**(正直に言うと)、**to be sure**(確かに)、**to make the matter worse**(さらに悪いことに)、**to be frank with you**(率直に言って)、**to put it bluntly**(單刀直入に言えば)など、さまざまな決まり文句があります。

to 不定詞は、「指し示す」ニュアンスを伴った大変目立つ要素です。文頭に置くと、忍不住まいを正す感触が文に付け加えられます。まぁ、「本当のこと言うとね」で会話を始めるヤツは、なかなか本当のことを言わなかったりもするのですが、ね。

□ **to one's** 感情 (~したことには)(1) **To my surprise, he passed the test.**

(驚いたことに、彼はそのテストに合格した)



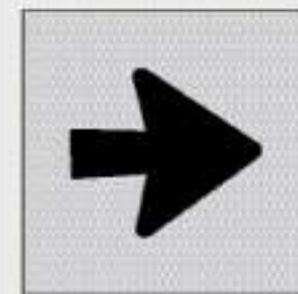
to is、**to one's disappointment/sorrow/delight**(ガッカリした／悲しかった／大変喜んだことに)など、さまざまな感情と組み合わされます。これも **to** の「指し示す」から。後続文の内容が、感情とガッチリ結び付いていることをあらわしています。

**基礎副詞**

副詞として使われる語句の中には、文に多いおニュアンスを添えるものがいくつもあります。短く・ちょっとした意味を付け加えるこれらの単語は、大変繊細な感情をもっており、日本語ではなかなか正確することができます。でも私たちには強力な武器——イメージがあります。基礎副詞の世界によこそ。

so

すごく・だから、など



英語カード [矢印]

▶ **so** は極端に多様な単語。強烈表現としても、先行文脈を受ける語としても、あるいは接続詞としても使います。イメージ「→」が單純なゆえ、多様な使い方を生み出しているのです。

再生イメージ

◎ [強調]

(1) **These puppies are so cute!**

(この子犬たちとってもかわいい!)

▶ **very** よりも感情的発達した強烈表現。「とっても」。ただ、**very**との違いは強さだけではありません。そこには「だから(→)」が感じられています。この文は「とってもかわいい! (だから) キュッと抱きしめちゃいたい!」など、「だから」の余韻が感じられるのです。

◎ [接続詞]

(1) **I forgot my girlfriend's birthday, so she got really mad at me.** (彼女の誕生日忘れたから、すごく怒られた)

▶ 「→」を文をつなげる接続詞として使っていきます。

◎ [前の内容を受ける]

(1) **Has Tim arrived yet? — I don't think so.** (ティムはもうきた? —まだだと思う(そうは思わない)よ)

(2) **I love Lady Gaga. — So do I.**

(レディー・ガガ好きなんだ。—僕もだよ)

▶ (1) **do so** (そうする)、**say so** (そう言う)など、**so** には前の内容を受ける使い方があります(☞P.647)。「そーんがふうに」と前の内容をな



【矢印】

- ☞ such は「そのような・このような」。もちろん何かを「指す」イメージです。

【矢印】

① 【そうした類の】

- ① These kids are amazing. They train every day, rain, hail or shine. Such dedication is hard to find these days.

(この子たちはすごいよ。毎日雨の日もひょうが降る日も晴れてる日も練習に明け暮れている。こうした熱意は最近進歩に見られないモノだ)

- その場にあるモノや、それまでの文脈を基にして「そのような」。



● such の作る形に注意！

such a nice person (→ a such nice person) のように、such は a [an] の前に置きます。

② 【無意味】

- ① Shinobu is such a geek! (しのぶはすっこいオタクなの！)



- ② I've never seen you wearing such bright colors. (そんなに明るい色を着ている君を見たことないよ)



- 強調で使われるとき、such は「強調」を示します。You can't get better (more terrible). (これ以上「ひどい」はないよ) ってこと。a geek such as I've never met before (僕が見たことがないようなオタク) というキモチが滲れています。

► such を使ったフレーズ

- ① such as ... (「のようない」)

① I like different kinds of movies, such as action, horror, comedy, and so on. (僕はいろんな映画が好き。アクションとかホラーとかコメディなどなど)

- 「そのような」と言ってから as 以下に例を並べます。相手に例を並べてもらうときにも、使えますよ。

☞ I think our school has many good points.

► so を使ったフレーズ

- ① so ... (that) 文 (とても・なので～) 【結果】

☞ I was so tired I couldn't sleep.
(疲れすぎて眠れなかった)

- so の「→」が「結果」の使い方につながっています。「とても疲れた（だから）」という so の末尾に結果を示す文が続いているのです。同じ強調でも、very tired I couldn't sleep は不自然。very には「→」の感覚がないから。

► so ... (that) の that はもちろん「文をなめらかに・正確につなぐ」that。この例文程度の内容なら、僕は that を使いません。「疲れて寝れなかつた」こんな簡単な内容を正確につなぐ必要はないからです。The teacher's explanation was so long and complicated that not even the best students could follow it. (その先生の説明はあまりに長く複雑だったので、最もできる学生でもついていくことはできなかつた)。これくらい長く複雑な文になると、しつかり that でつなげてあげなければなりません。「目的」をあらわす so (that) 文、so as toについて(P.632)をお参照してください。

SUCH

そのような・とても、など



► such を使ったフレーズ

- ① such as ... (「のようない」)

① I like different kinds of movies, such as action, horror, comedy, and so on. (僕はいろんな映画が好き。アクションとかホラーとかコメディなどなど)

- 「そのような」と言ってから as 以下に例を並べます。相手に例を並べてもらうときにも、使えますよ。

☞ I think our school has many good points.

— Such as? (彼らの学校にはたくさんいいところがあると思う——例えば?)

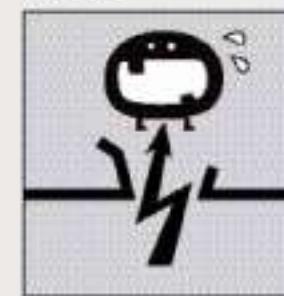
- ② such ... that ~ (とても…なので～)

③ He was such a loser that I dumped him after the first date. (彼、すごく情けなかったから最初のデートで捨てたわよ!)

► such が大きな強調を a loser に置いています。そしてどうした結果をもたらすほどの loser だったのかを that 以下で指し示しているのです。「目的」をあらわす such that 文 In such a way that (in such a way as to) に関しては(P.632)をお参照してください。

TOO

あまりに



【行きすぎ】

► 行きすぎをあらわす強調表現。常に否定的なニュアンスを持っています。

- ① I thought the movie was too long.

(その映画は長すぎると思った)

► too を使ったフレーズ

- ① too ~ to ... (～すぎて～できない)

③ It's too hot to play tennis.
(暑すぎてテニスできないよ)

► too は「行きすぎ」常に「だからできない」を想像させます。詳しくは P.472 をご覧ください。



● 「～も」の too

I love you, too. (僕も君が好きだよ)
「～も」と文に添える too。この too は「～すぎる」too とは、別物。誤用しないでね。

RATHER

かなり・むしろ、など



【対比】

► 対比で使われますが、それほど大きな強調ではありません。

- ① This steak is rather tasteless, don't you think? (このステーキ、かなりまずいな。そう思わない?)

► rather の後ろには対比のキモチが隠れています。「思っていたよりもまずい」といった対比。この意識がさまざまなフレーズに生きています。

► rather を使ったフレーズ

- ① would rather ~ (むしろ～したい)

② Lots of people are into sports or hobbies, but I'd rather just hang out with my mates. (スポーツとか趣味とかに入れ込んでいる人は多いけど、僕はむしろ友達とふらふらしてみたいだ)

► rather の対比の意識が色濃くあらわれたフレーズ。(スポーツとか趣味とかより) むしろ… という意識です。否定は rather のあとに not. I would rather not comment. (コメントしたくないな) のようになります。

- ③ but rather (そうじゃなくて)

助動詞・意味の連関

心理をあらわす助動詞。それぞれの細かなニュアンスをまとめて復習しましょう。

The diagram illustrates the following connections:

- MUST** (強制的):
 - ↓ 同じ意味 (Same meaning) from **ought to**
 - ↓ 進むべき道 (Way to go) from **shall**
 - ↓ 精神力 (Mental strength) from **WILL**
 - ↓ 客観的 (Objective) from **have to**
 - ↓ 壓力 (Pressure) from **must not**
 - ↓ 誓約 (Promise) from **should**
 - ↓ 意思表示 (Expression of intent) from **would**
 - ↓ 潜在 (潛在) from **can**
- ought to** (同じ意味)
 - ↑ 進むべき道 (Way to go) from **shall**
 - ↑ 精神力 (Mental strength) from **WILL**
- shall** (進むべき道)
 - ↑ 同じ意味 (Same meaning) from **ought to**
 - ↑ 精神力 (Mental strength) from **WILL**
- WILL** (精神力)
 - ↑ 同じ意味 (Same meaning) from **ought to**
 - ↑ 進むべき道 (Way to go) from **shall**
 - ↑ 潜在 (潛在) from **can**
- have to** (客観的)
 - ↑ 客観的 (Objective) from **MUST**
 - ↑ 意思表示 (Expression of intent) from **would**
- must** (強制的)
 - ↑ 客観的 (Objective) from **have to**
 - ↑ 壓力 (Pressure) from **MUST**
- must not** (禁止)
 - ↑ 壓力 (Pressure) from **MUST**
- should** (進むべき道)
 - ↑ 同じ意味 (Same meaning) from **ought to**
 - ↑ 精神力 (Mental strength) from **WILL**
- would** (過去の習慣)
 - ↑ 意思表示 (Expression of intent) from **WILL**
- used to** (慣習)
 - ↑ 意思表示 (Expression of intent) from **would**
- had better** (緊迫感)
 - ↑ 慎重的 (Careful) from **used to**
- can** (潜在)
 - ↑ 潜在 (潛在) from **MUST**
 - ↑ 潜在 (潛在) from **WILL**
 - ↑ 潜在 (潛在) from **had better**
- may** (かもしれない)
 - ↑ かもしれない (maybe) from **might**
 - ↑ 公的な禁止 (Official prohibition) from **must not**
 - ↑ 許可 (Permission) from **can**
 - ↑ 誓約 (Promise) from **will**
 - ↑ 潜在 (潛在) from **had better**
- might** (maybe)
 - ↑ かもしれない (maybe) from **may**